

令和4年度「家庭における読書活動」アンケート結果

1 目的

社会教育委員が、家庭における読書活動の実態を調査（アンケート）することにより、今後の町の読書活動の推奨や推進に活用する。

令和4年度調査

(1) 調査期間

令和4年6月1日（水）～6月6日（月）

(2) 回収日

令和4年6月9日（木）

(3) 回収率

【校種別】

回答数/配付数（回答率）

・ 保育園	… 保護者	56/ 95	(58.9%)
・ 幼稚園	… 保護者	92/114	(80.7%)
・ 小学校	… 1～3年生保護者	101/111	(91.0%)
	4～6年生保護者	155/196	(79.1%)
	4～6年生児童	216/222	(97.3%)
・ 中学校	… 保護者	96/190	(50.5%)
	生徒	192/200	(96.0%)

【保護者・子ども別】

・ 保護者	⇒ 500/706	(70.8%)
・ 子ども	⇒ 408/422	(96.7%)

全体 ⇒ 908/1128 (80.5%)

令和元年度調査

(1) 調査期間

令和元年9月20日（金）～9月26日（木）

(2) 回収日

令和元年10月1日（火）

(3) 回収率

【校種別】

・ 保育園 ⇒ 72.5%	・ 幼稚園 ⇒ 77.3%
・ 小学校 ⇒ 79.8%	・ 中学校 ⇒ 71.5%

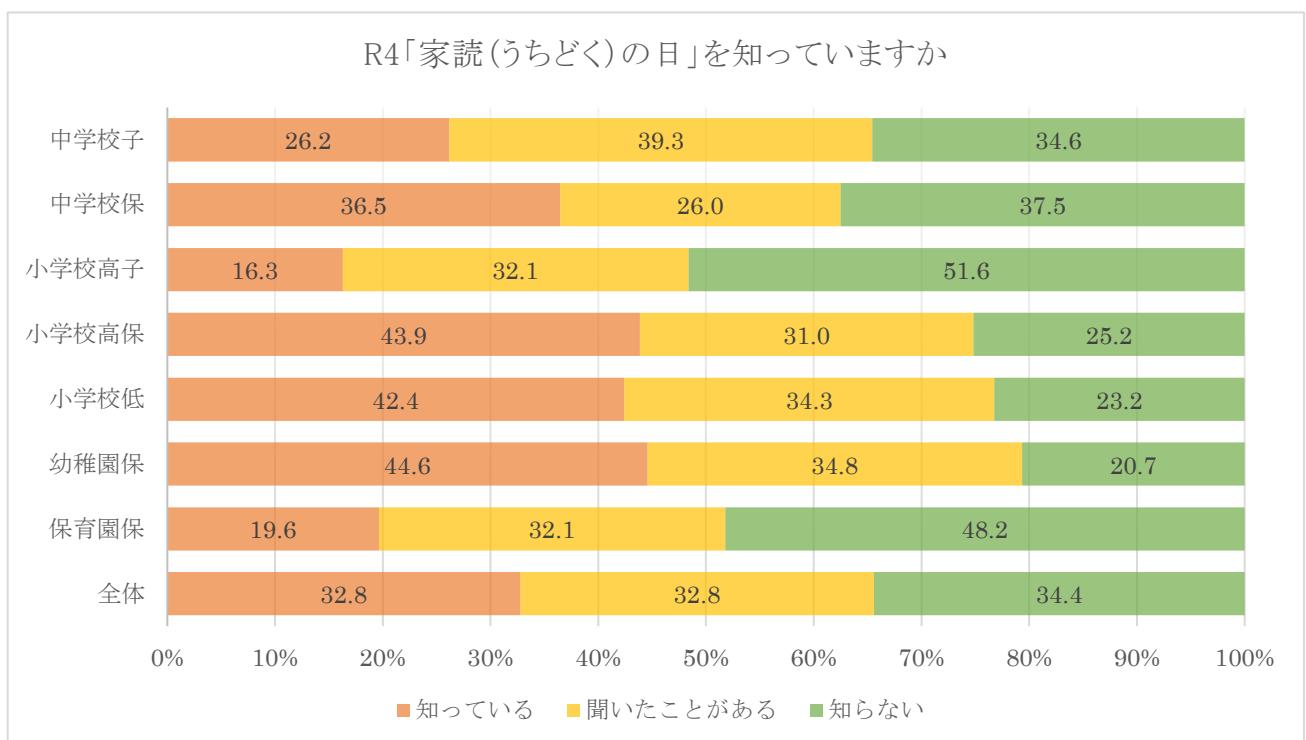
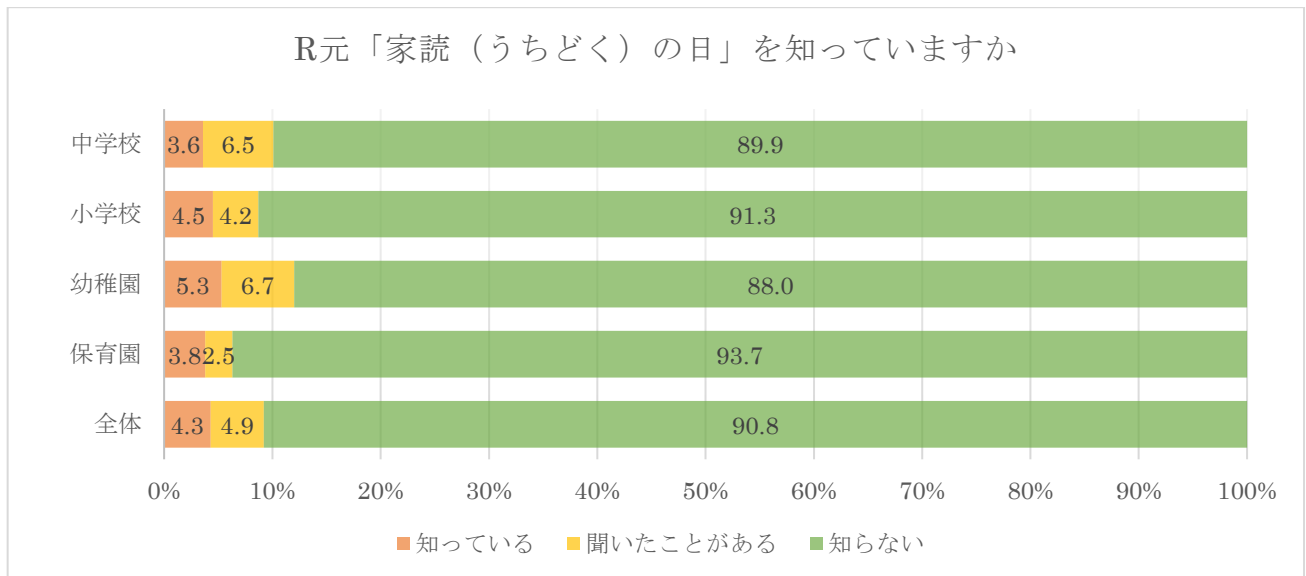
全体 ⇒ 75.1% (548/730)

5 調査結果

(1) 松田町では、毎月第1日曜日を「家読（うちどく）の日」（神奈川県は「ファミリー読書の日」）とし、家庭における読書活動を推奨しています。

* R元・・・令和元年度調査、R4・・・令和4年度調査

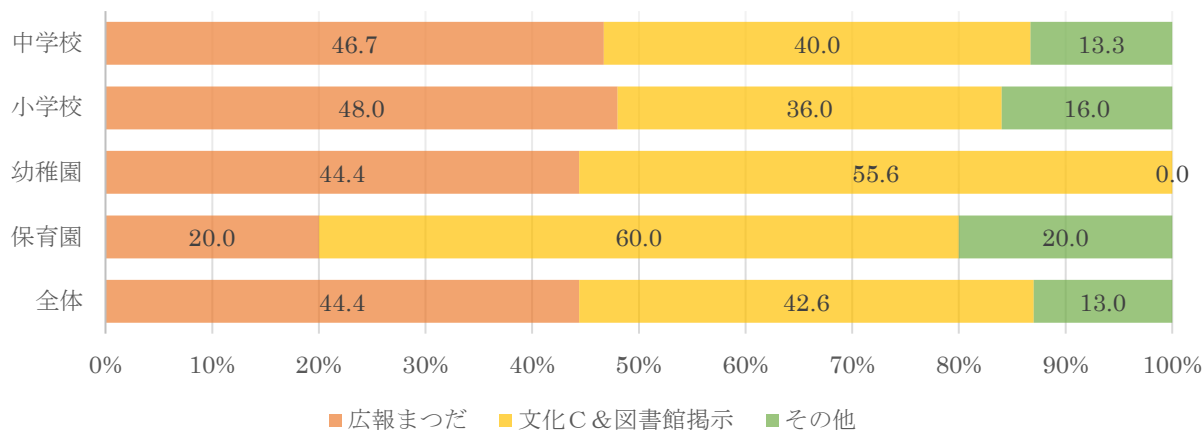
Q1



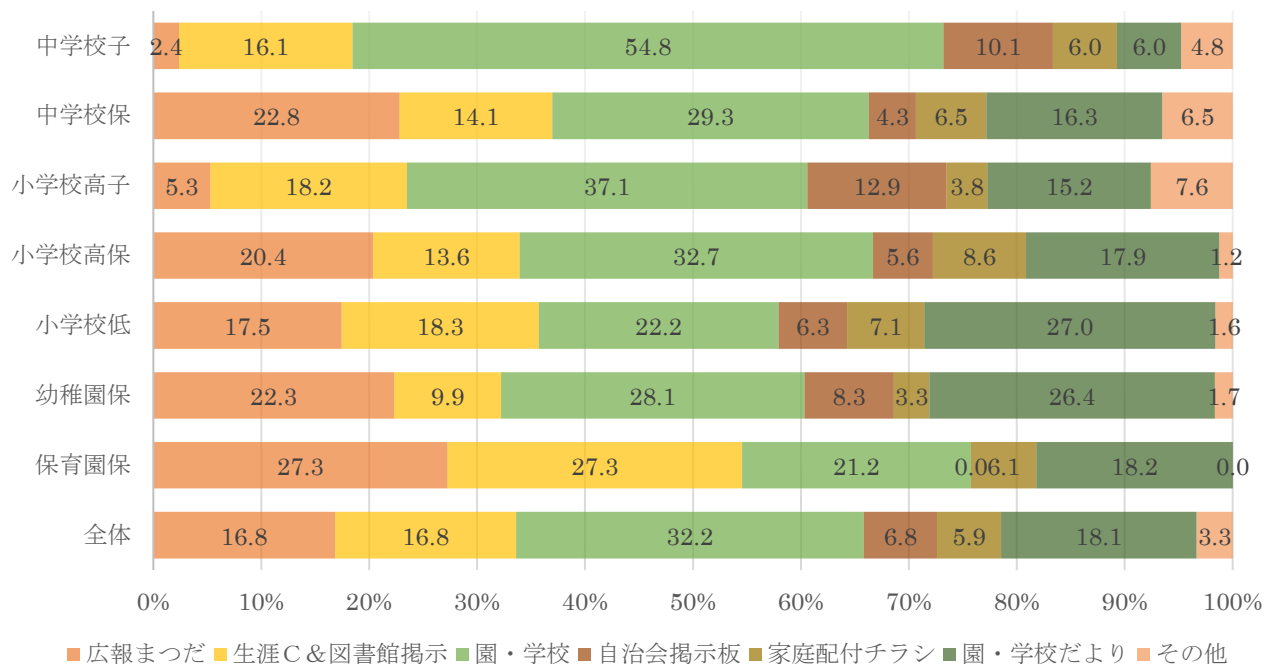
- ・全体的に、令和元年度よりも圧倒的に増加し、6割以上が認識している。
- ・小学校高学年の子どもと保育園の保護者は、半数が未だ知らない状況にある。

Q 2

R元「家読の日」をどこで知ったり、聞いたりしたことがありますか（複数回答可）



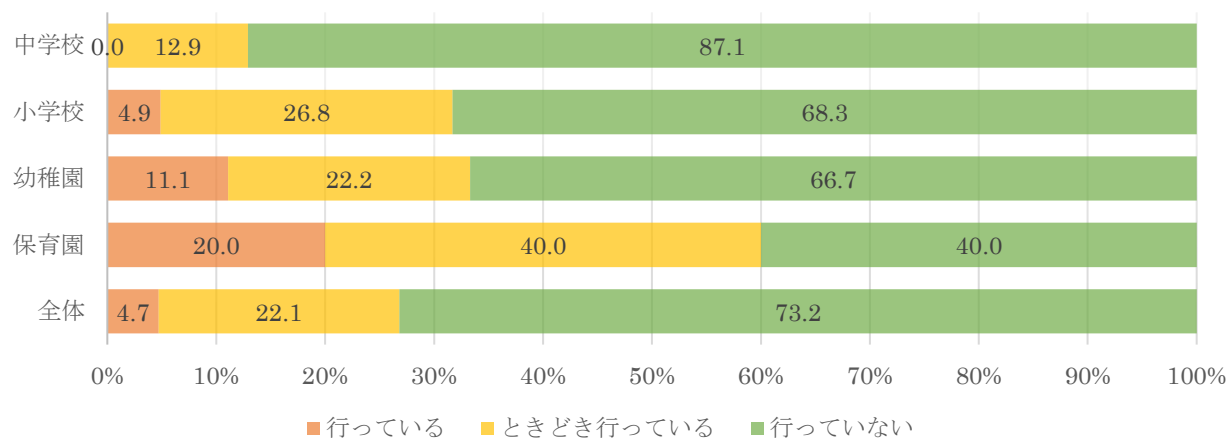
R4「家読の日」をどこで知ったり、聞いたりしたことがありますか（複数回答可）



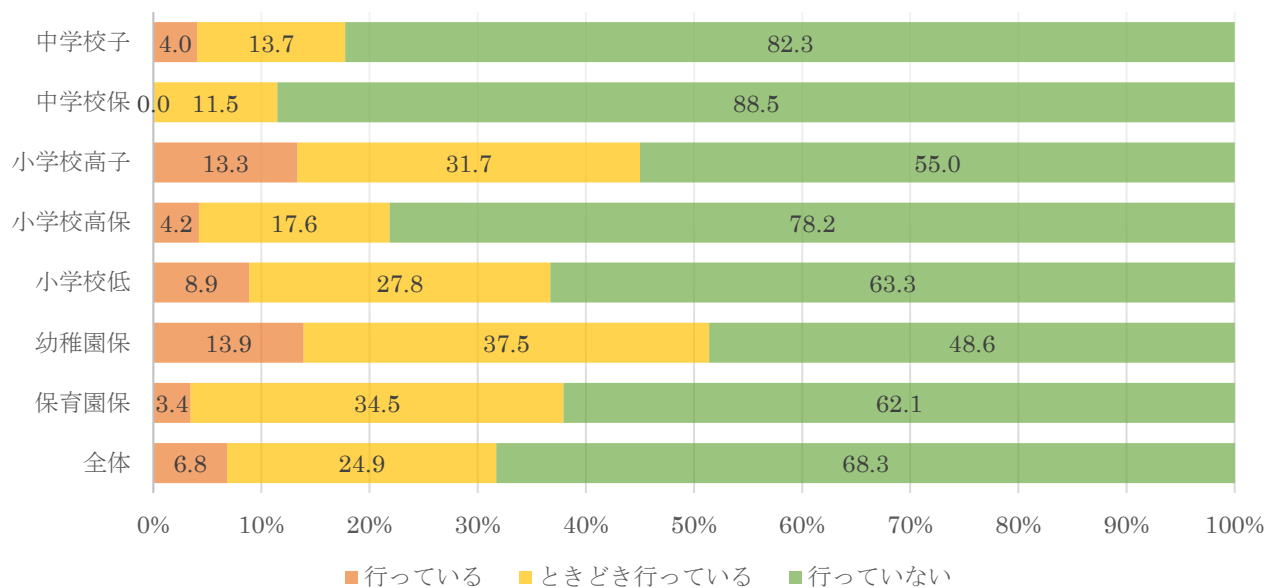
- ・令和元年度では、「園・学校」「園・学校だより」の項目がなかったので、安易に比較はできないが、令和4年度では、学校や園・学校だよりで知ったり、聞いたりした人が多かった。
- ・学校の中で話題にしてもらったことが、効果を上げた結果ではないかと考える。園や学校の影響が大きいことがわかる。
- ・次いで広報まつだや生涯学習センター等の掲示物の順であった。

Q 3

R元「家読の日」に読書を通して家族でコミュニケーションを図ったり、家族で図書館へ行ったり、絵本の読み聞かせをしたり、読書をしたりする等、読書に関することを行っていますか

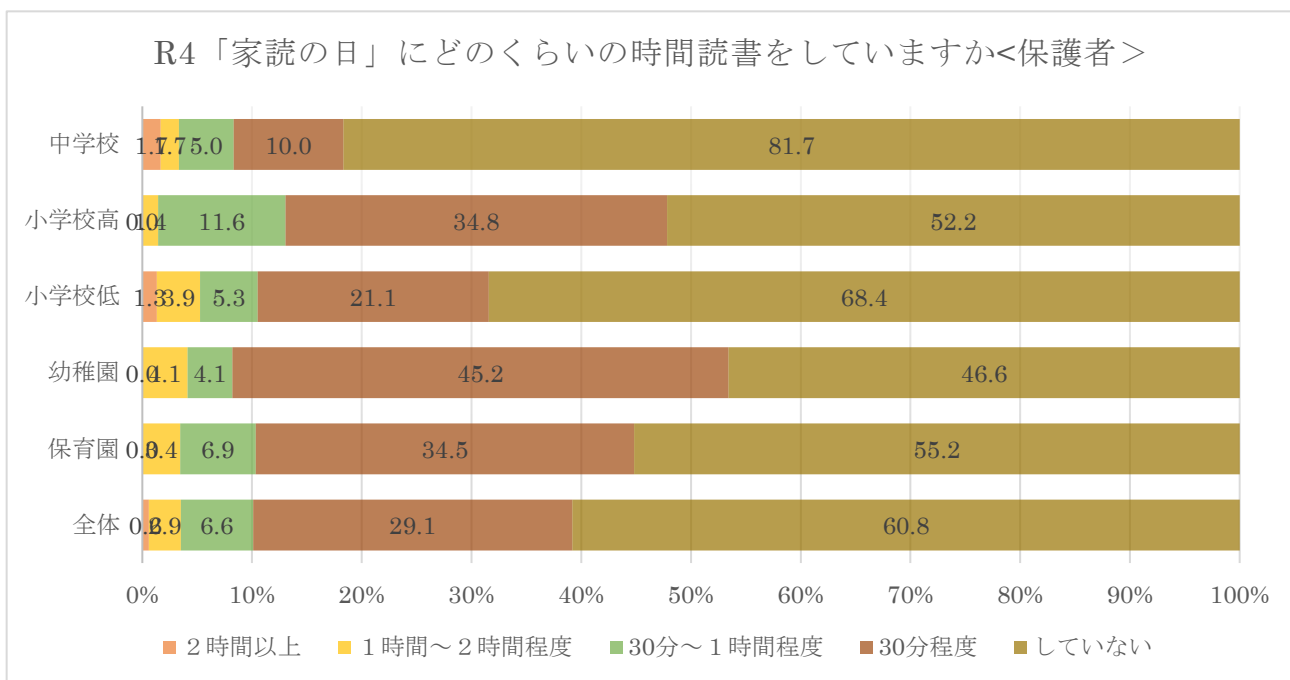
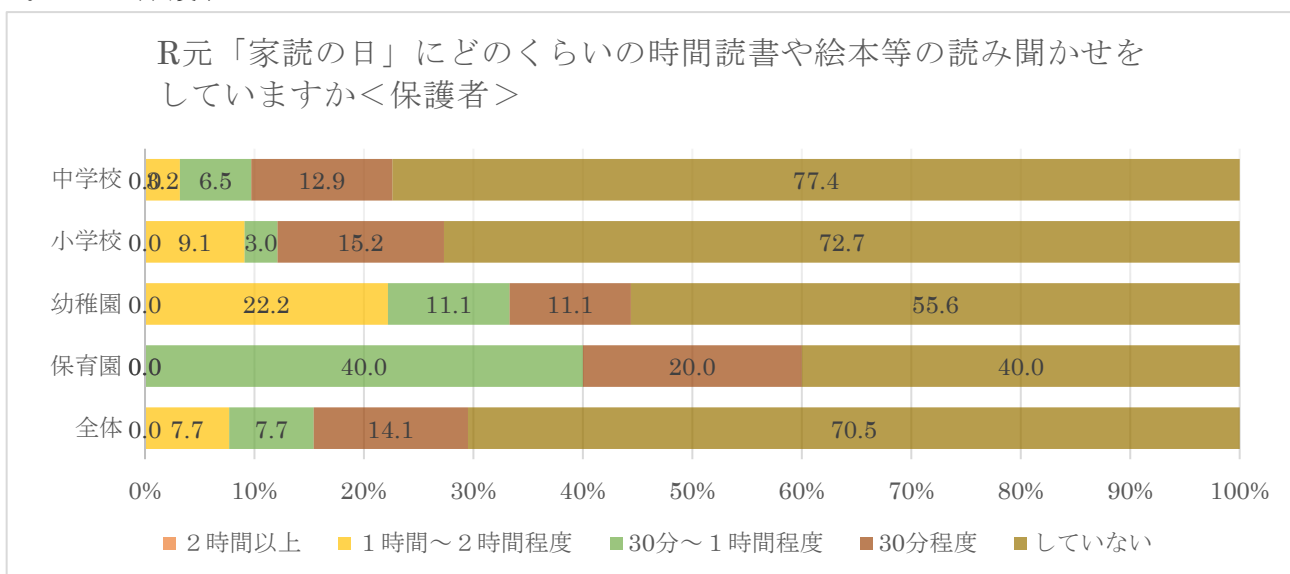


R4「家読の日」に読書を通して家族でコミュニケーションを図ったり、家族で図書館へ行ったり、絵本等の読み聞かせをしたりする等、読書に関することを行っていますか



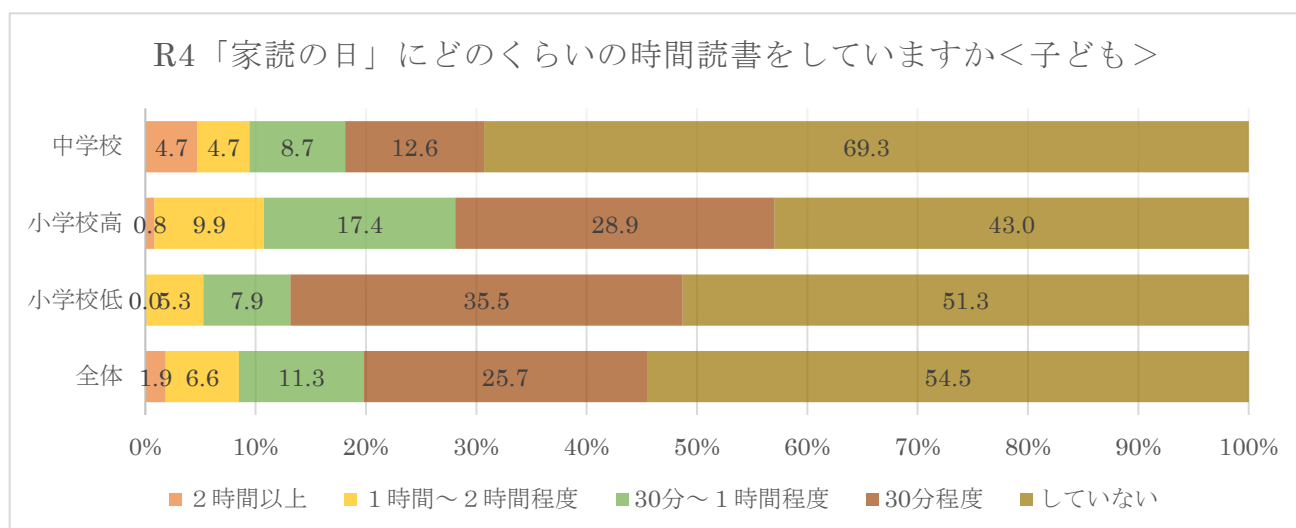
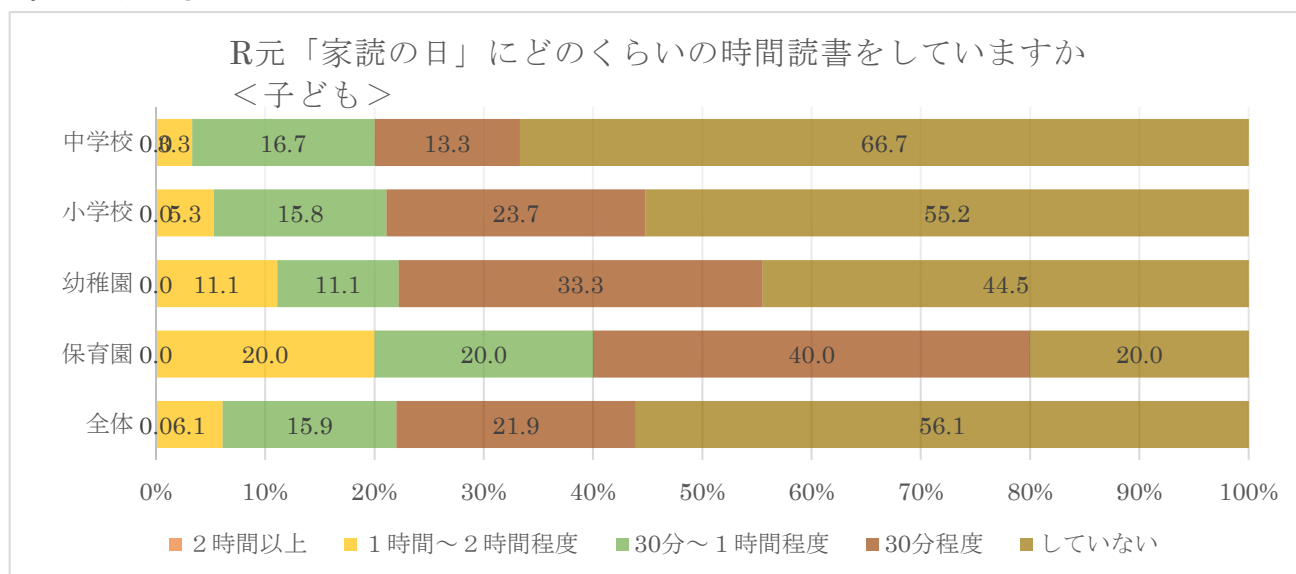
- ・令和元年度と大きな違いはない。
- ・わざわざこの日に読書によるコミュニケーションをとっていない人が多い。
- ・学齢が高くなるほど、取り立てて意識していないことがわかる。(特に保護者)

Q 4 ＜保護者＞



- ・「家読の日」だからといって、特に読み聞かせ時間や読書時間が増えているわけではない。
- ・全体的には、30分程度が多く、「していない」は、70%が60%とわずかに減少した。

Q 4 <子ども>

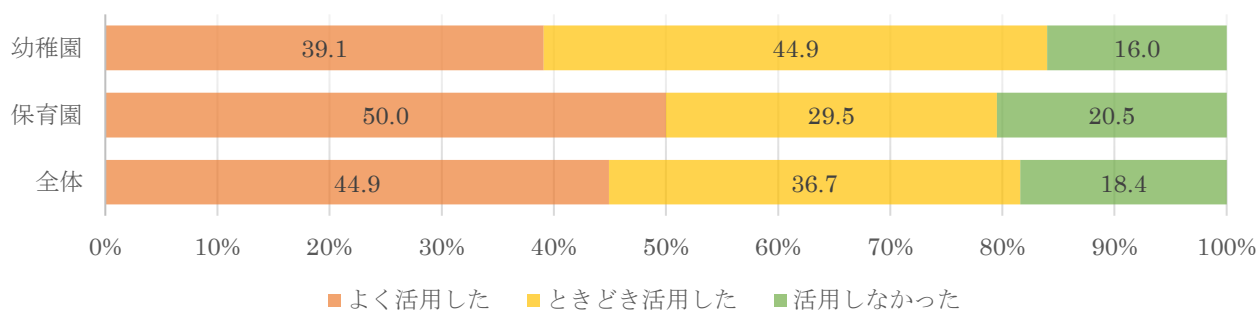


- ・小学生は、「読書しない」が減っている。
- ・中学生で2時間以上読書する人が増えているが、一方で「読書しない」が70%もいるのは、二極化してきていることが考えられる。
- ・「家読の日」を知ってもらった目標は達したが、それによって読書時間が増えたわけではない。読書量をどうやって増やすかは、今後の課題である。
- ・幼稚園・保育園・小学校では、読書後に感想を話させ、皆で聞く機会をもつことが大切ではないか。
- ・本を読むことが楽しいことを知らせる必要がある。

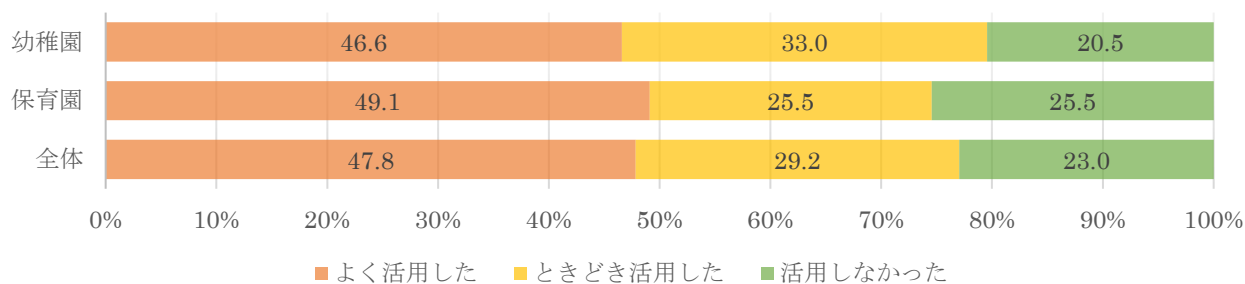
(2) 町が行っている読書活動についてお聞きます。

Q 1

R元 町の子育て健康課では、3か月検診の時に絵本を配付するとともに、奨励するブックリストなども配付しています。配付された絵本を活用しましたか



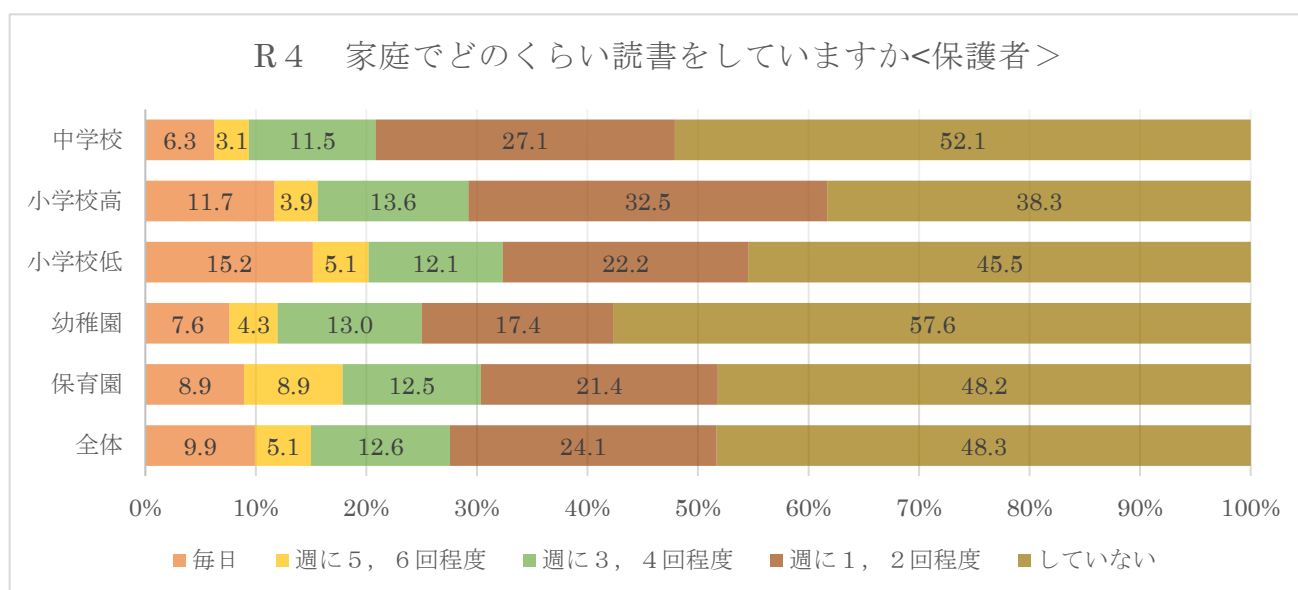
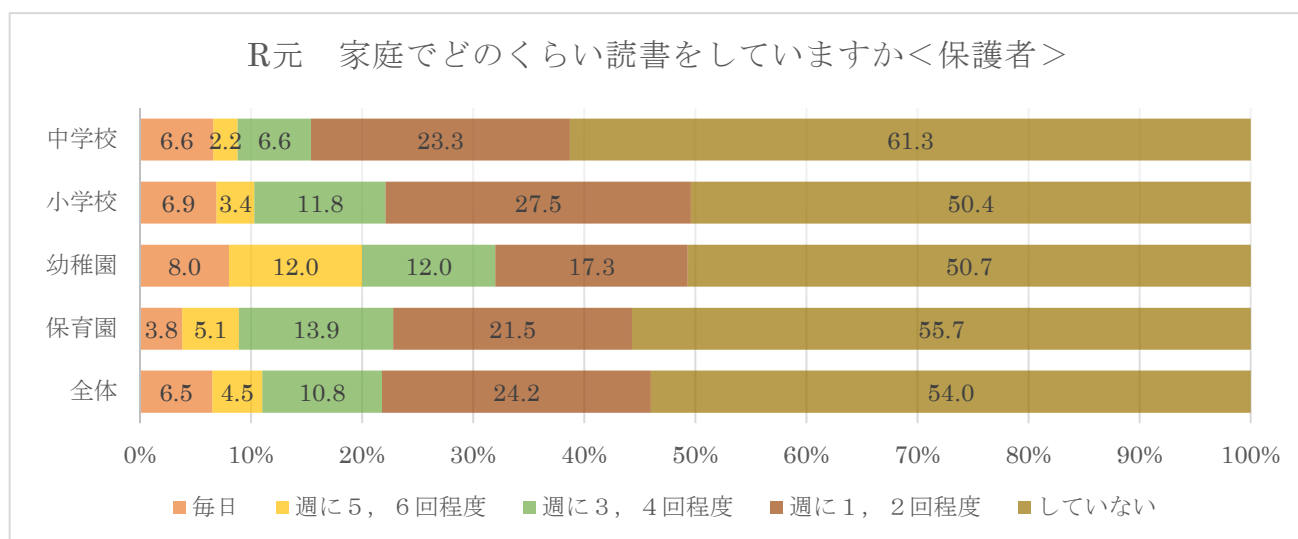
R4 町の子育て健康課では、3ヵ月検診の時に絵本を配付するとともに、奨励するブックリストなども配付しています。配付された絵本を活用しましたか



- ・よく活用する人が増えている一方、活用しない人も増えている。(二極化の傾向)
- ・8割くらいの人が活用している。効果があったといえる。

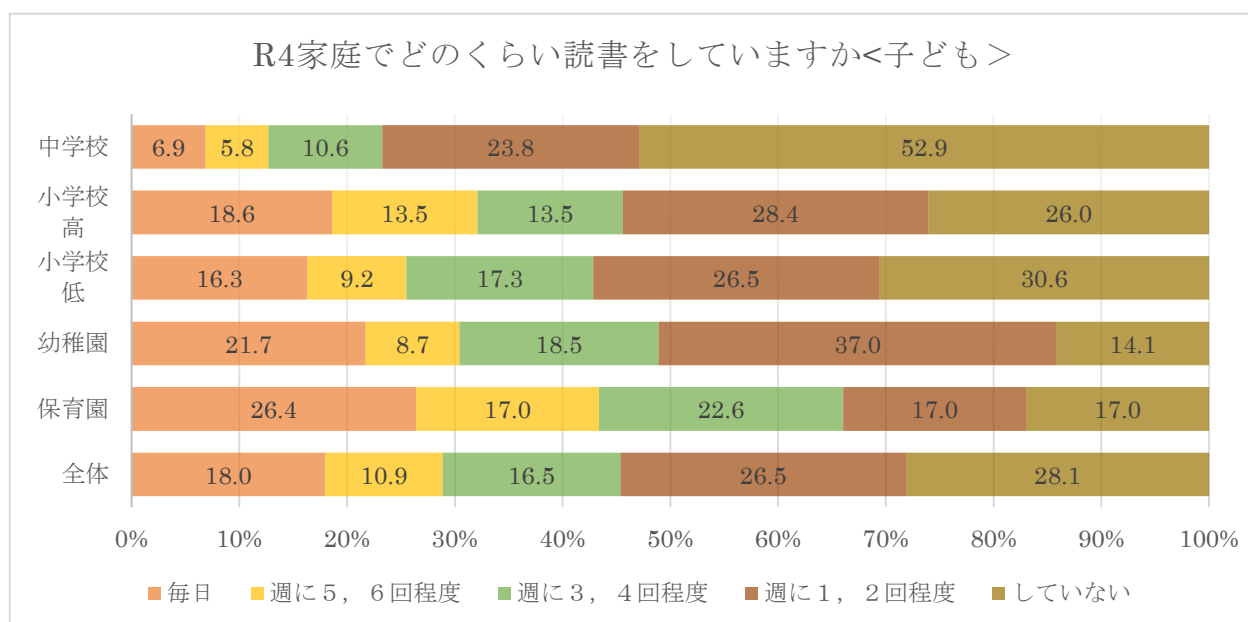
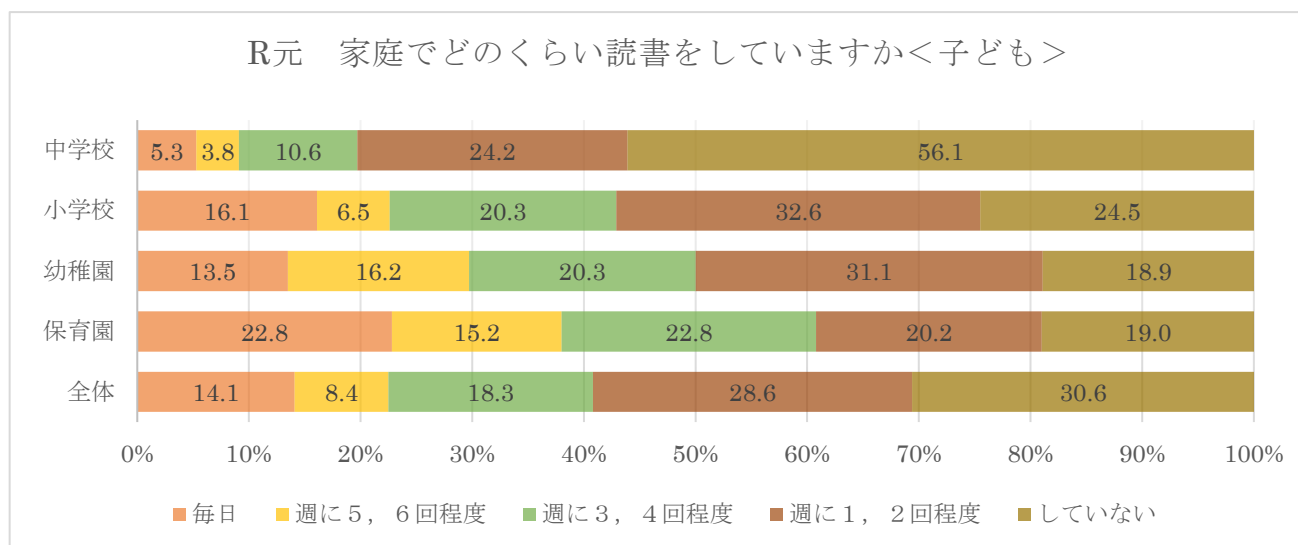
(3) 家庭での読書についてお聞きます。

Q1 <保護者>



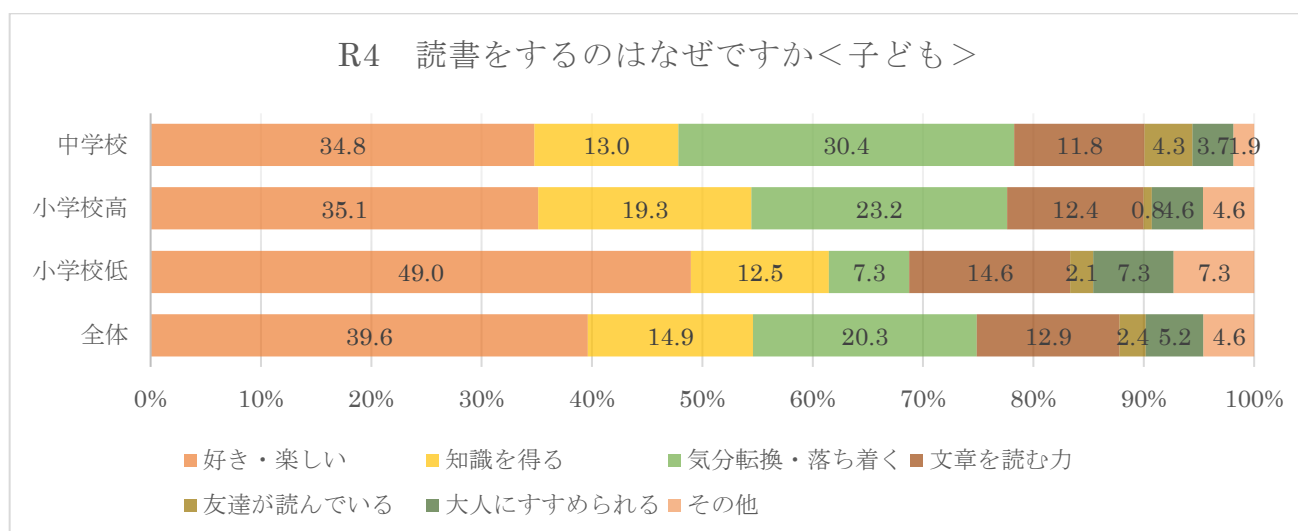
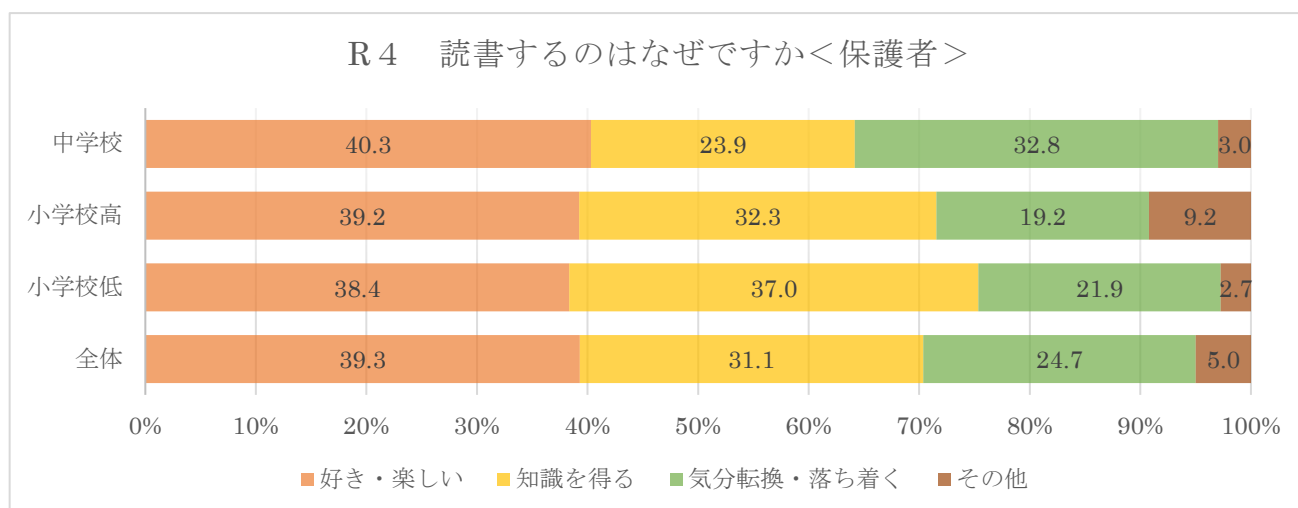
- ・毎日読んでいる人、週に5, 6回程度の人、3, 4回程度の方は、全体的に微増である。
- ・幼稚園保護者の「読書していない」人が前回に比べ、やや増えている。
- ・令和元年度より保護者の「読書していない」が、わずかに減っているが、保護者の約半数は、「読書していない」状況にある。

Q1 <子ども>



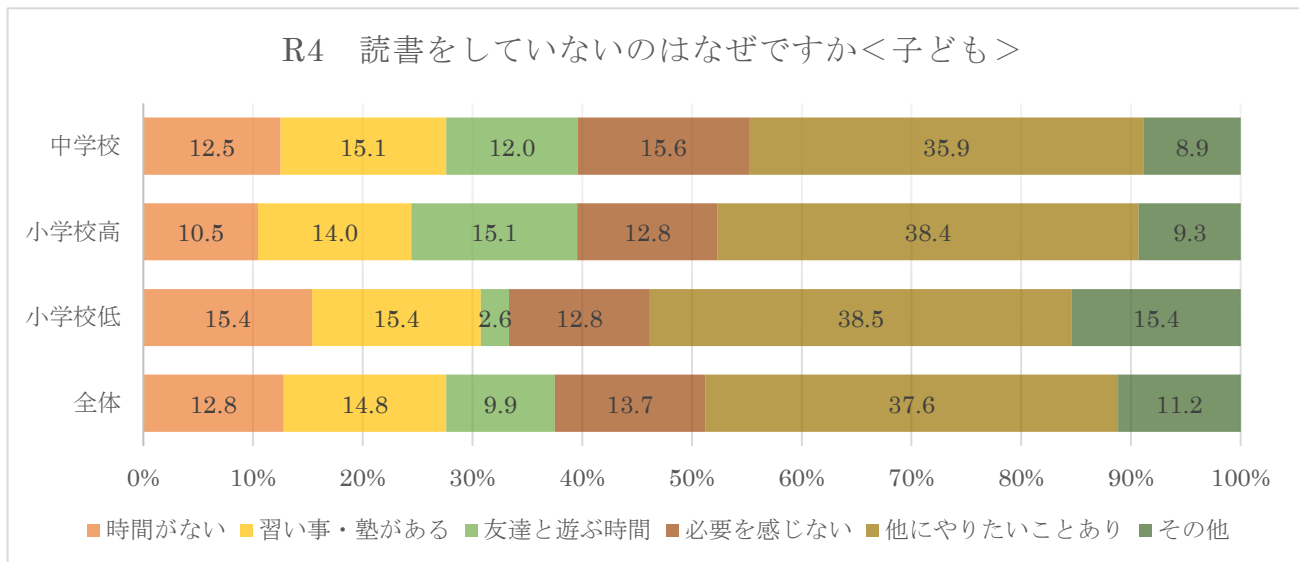
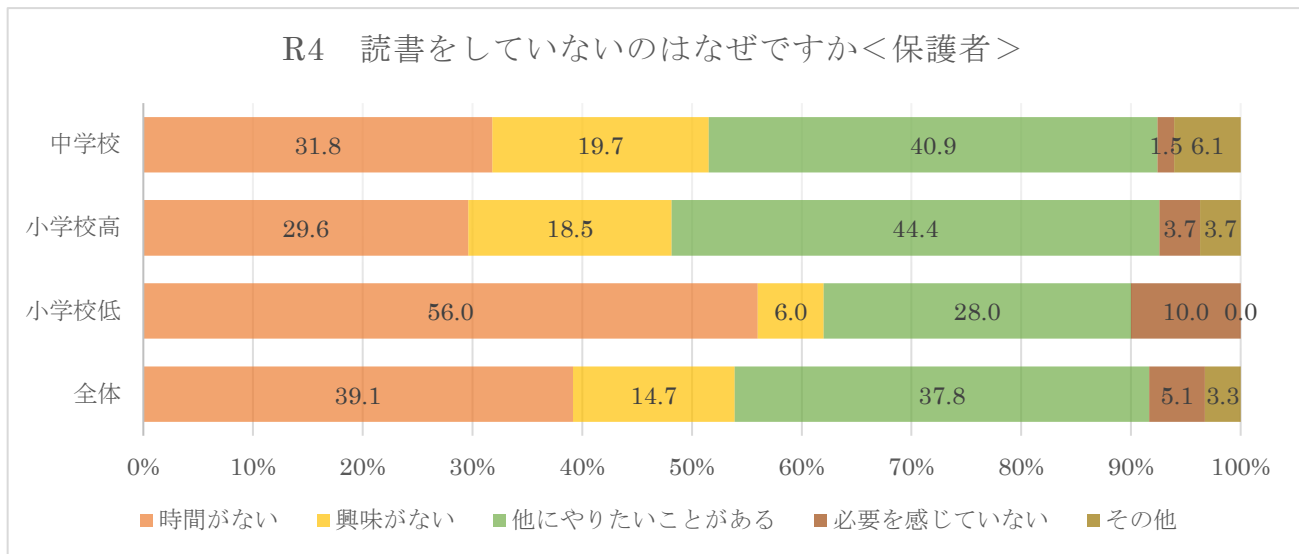
- ・令和元年度と比べると、R4年度は「読書している」が、全体的に微増の状態である。
- ・中学生では、「していない」がやや減っているが、約半数が家庭での読書をしていない状況にある。
- ・子どもは7割以上が少なくとも週1、2回以上読書している。保護者よりも読書していることがわかる。

Q 2



- ・保護者も子どもも、「好き・楽しい」から読書するという人が4割いる。
- ・中学生では、保護者も子どもも「気分転換・落ち着く」ので読書するという人が3割を超える。
- ・保護者は、「知識を得る」ために読書するという人が3割を超える。
- ・子どもは、年齢が上がるほど「好き、楽しいから読書する」が減り、「気分転換・落ち着くから読書する」が増える傾向にある。

Q 3



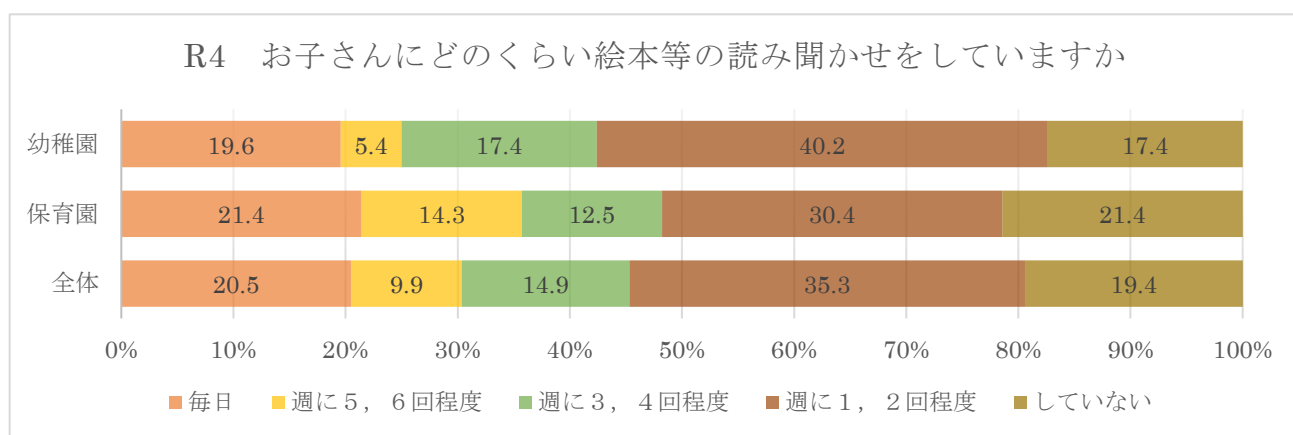
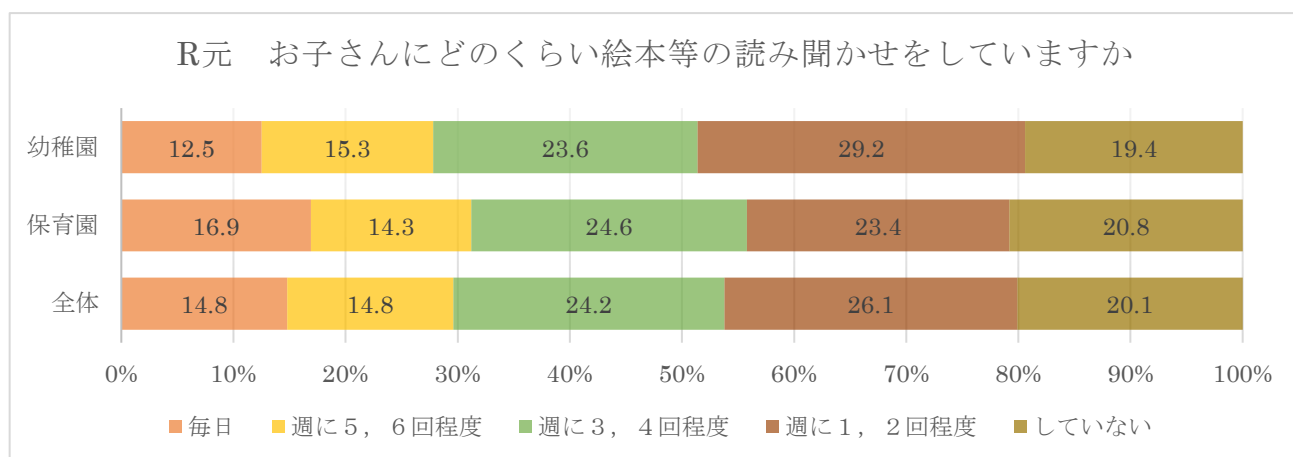
＜保護者＞

- ・子どもが小さいほど「時間がない」が多く6割近い。また「必要を感じていない」も多くなる。

＜子ども＞

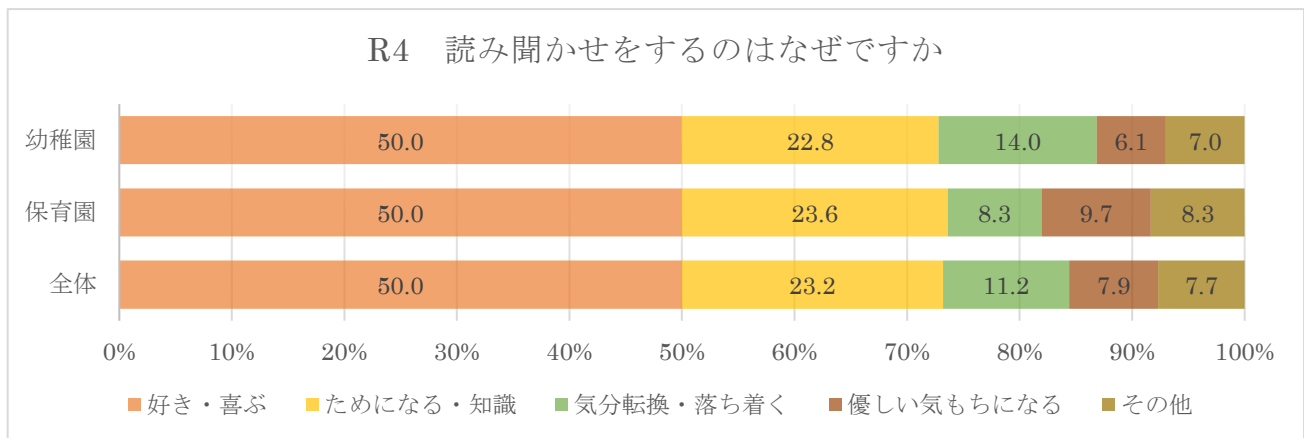
- ・「他にやりたいことがある」が、全体的に多く4割近くを占める。「時間がない」「習い事・塾がある」が、併せて3割弱である。「必要を感じていない」が1割以上である。
- ・時間がなくて読めないというよりは、別のやりたいことをしたいという気持ちが働いているのではないかと考える。

Q 4



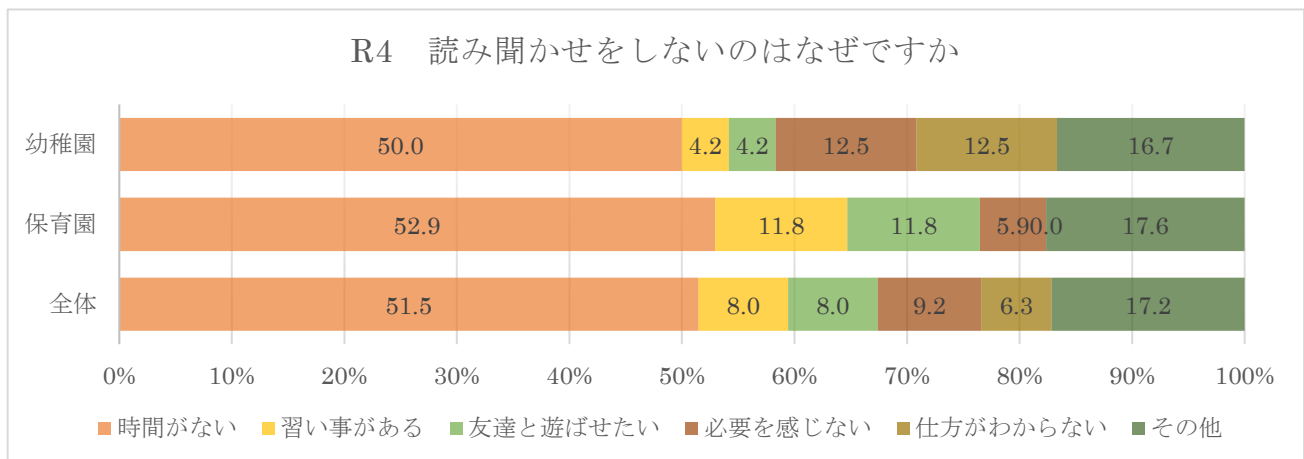
- ・全体として大きく変化はないが、「毎日」がやや増え、「週に 1, 2 回程度」が 10% 増えている。逆に「週に 3～6 回程度」が減っている。二極化がみられる。

Q 5



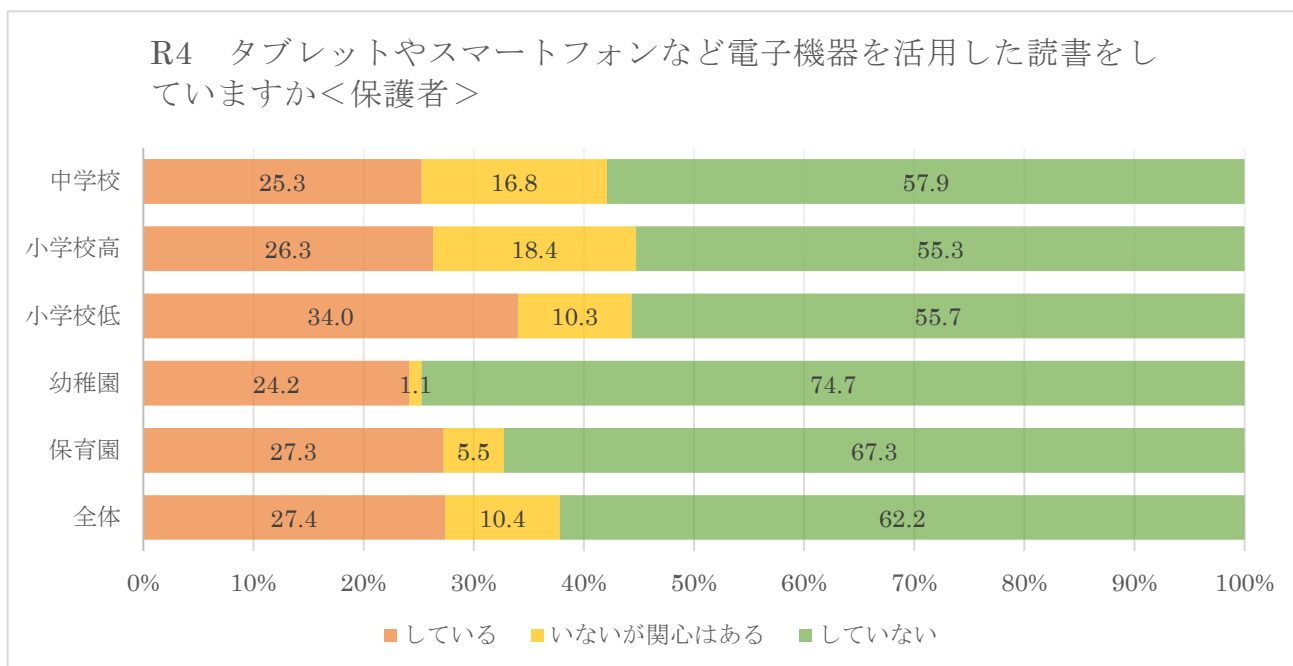
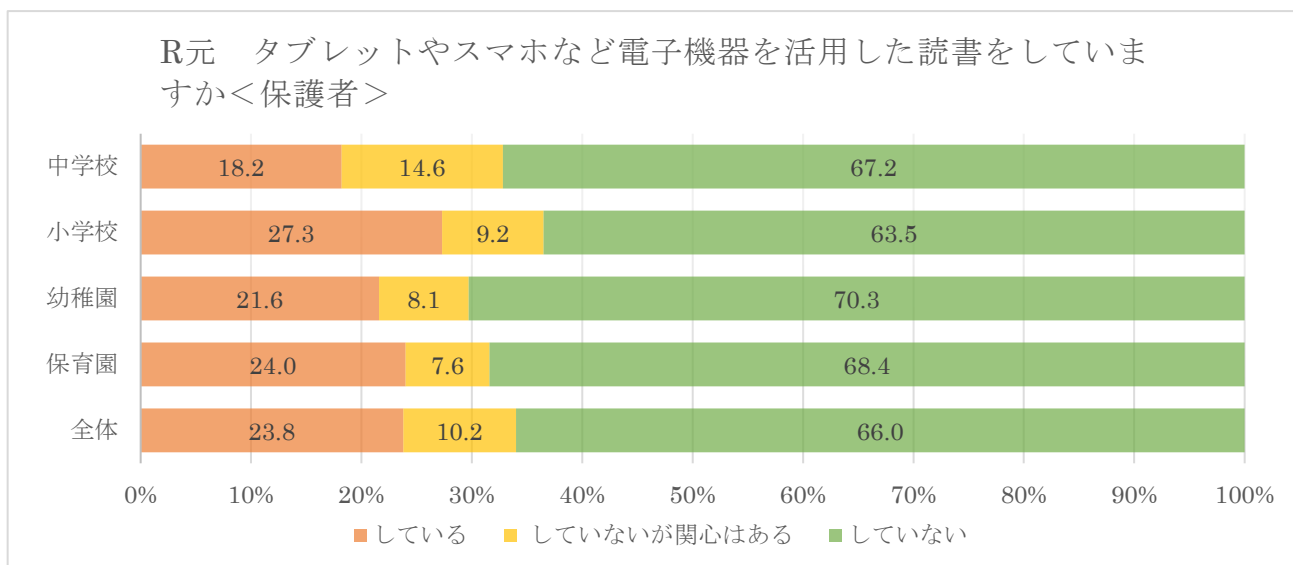
- ・半数が、「好き・喜ぶ」である。
- ・小学校低学年の読書する理由「好き・楽しい」(P. 10) に繋がっていると考えられる。
- ・1/4の保護者は、「ためになる・知識を得られる」と考えて読み聞かせをしている。
- ・その他の自由回答で「寝る前の習慣になっている」が複数あり、読み聞かせが、寝る前のルーティーンになっている家庭が多数みられる。「子どもに読んでほしいとせがまれる」ことも多いようで、子ども自身が読み聞かせを楽しみにしている様子がうかがえる。

Q 6



- ・半数が、「時間がない」としている。読み聞かせの時間を生み出すことが課題である。
- ・「必要を感じない」の回答も1割ほどある。
- ・「必要を感じない」「時間がない」としている保護者に、読み聞かせの意義や効果を伝えていくことが課題である。

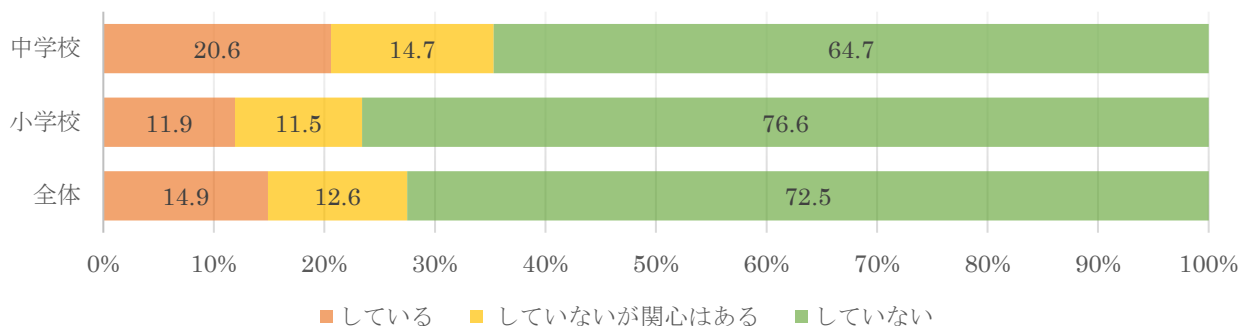
Q7 ＜保護者＞



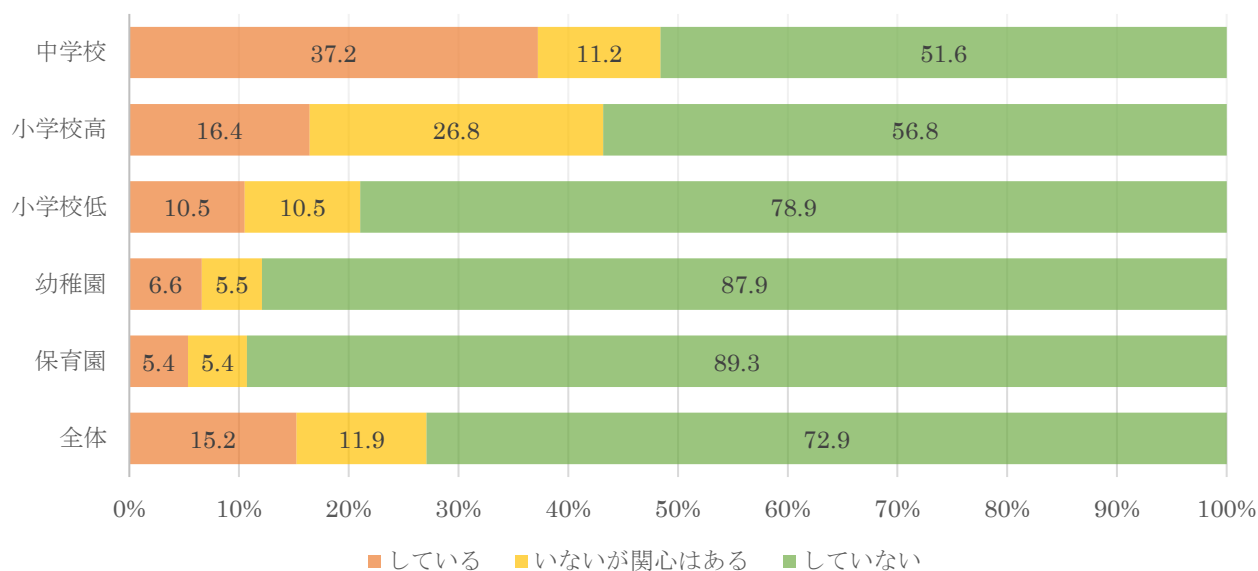
- ・令和元年度よりも令和4年度の方が、使用率も関心も高まっている。
- ・半数以上が「していない」状況にあり、まだ十分普及しているとはいえない。

Q7 <子ども>

R元 タブレットやスマホなど電子機器を活用した読書をしていますか<子ども>

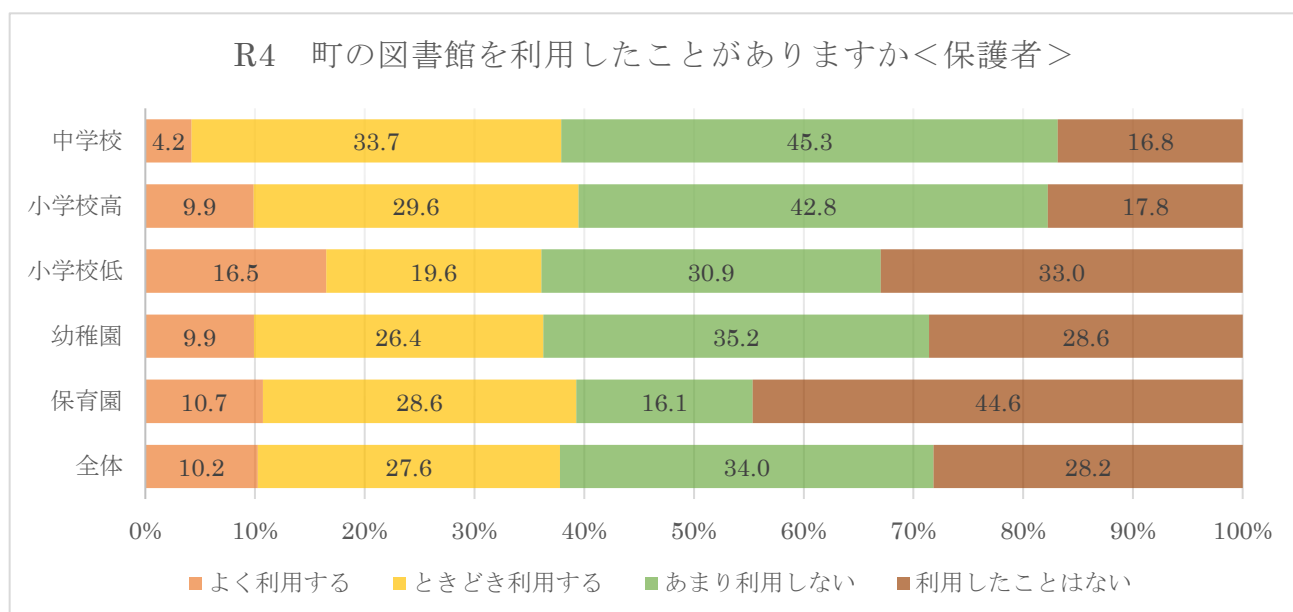
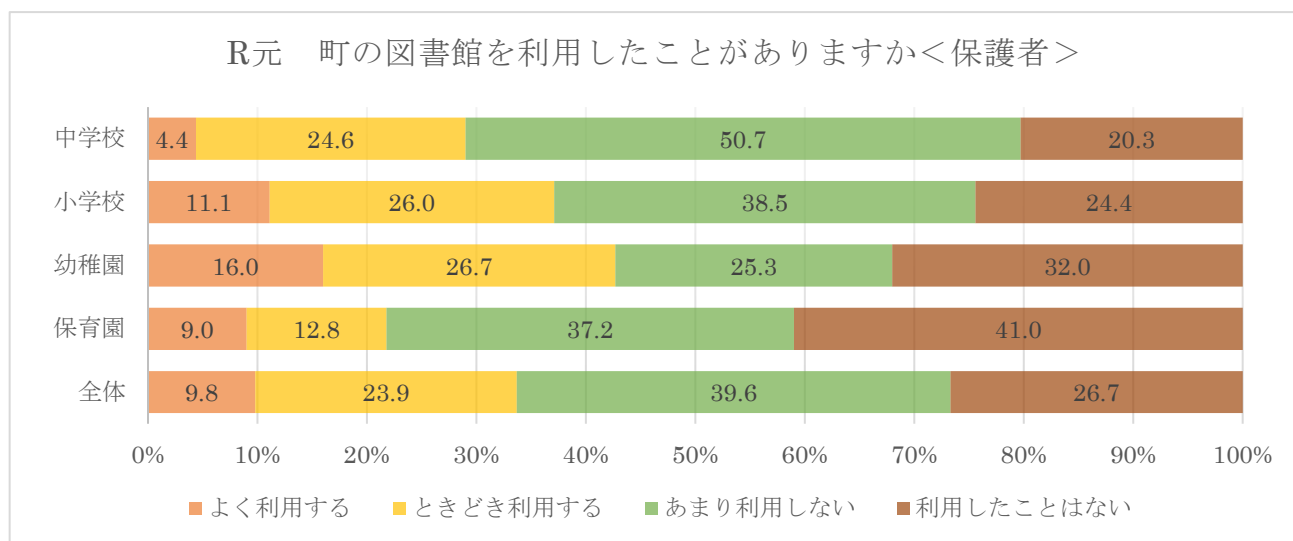


R4 タブレットやスマートフォンなど電子機器を活用した読書をしていますか<子ども>



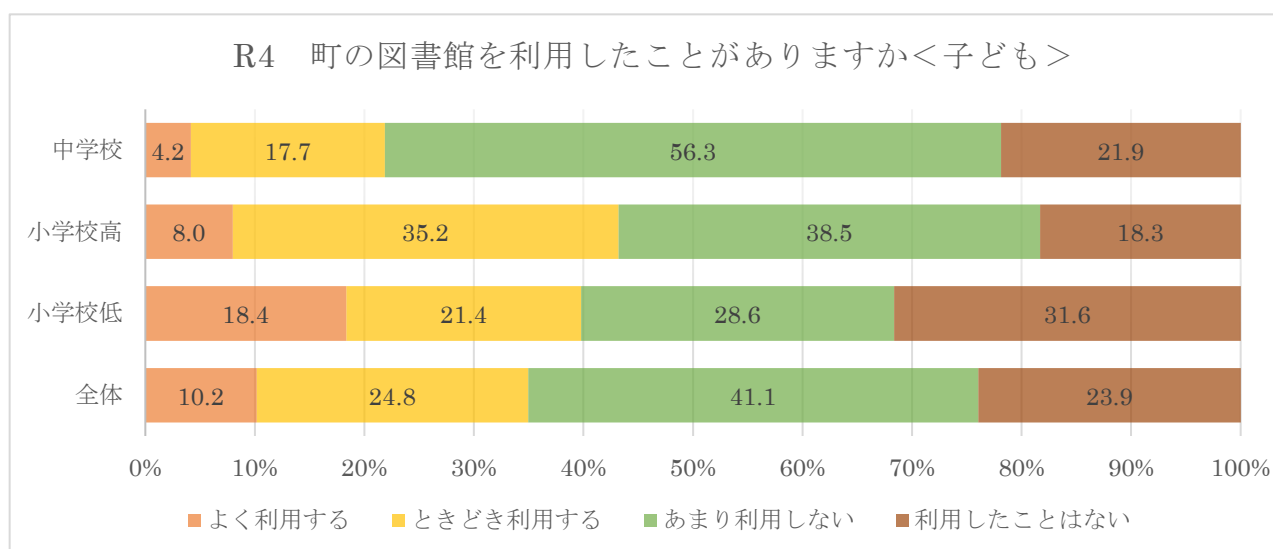
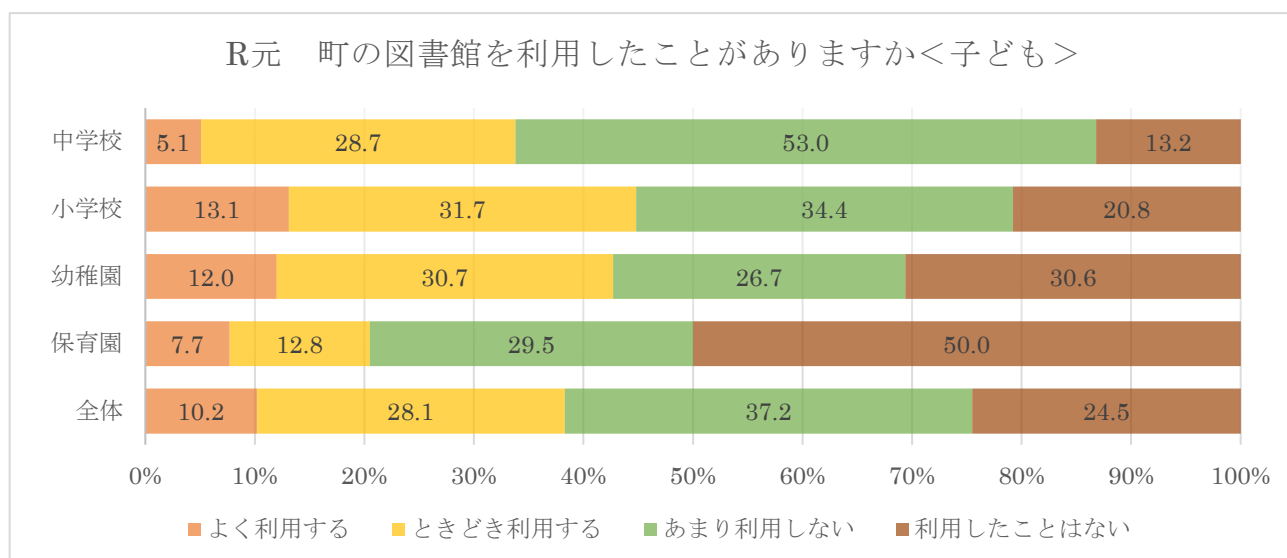
- ・学年が上がるほど、活用の割合が増えている。
- ・全体的にみると、電子機器の活用が普及しているとは言えない。

Q 8 <保護者>



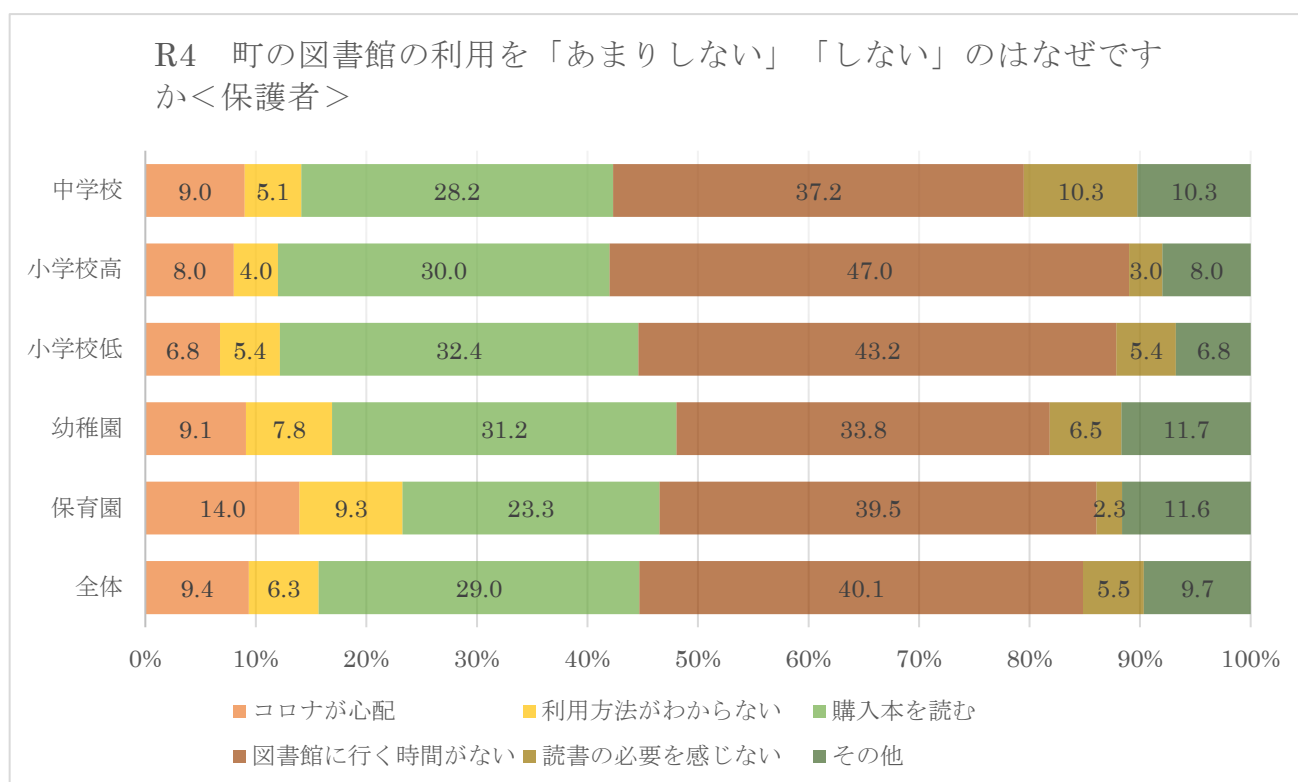
- ・令和元年度に比べて、保育園保護者の利用が増えている。一方、「利用したことはない」も増えており、二極化の傾向がみられる。
- ・保育園保護者の半数弱が、図書館を利用したことがない。
- ・全体的に半数以上が、十分図書館の活用がなされていないのが現状である。

Q8 <子ども>

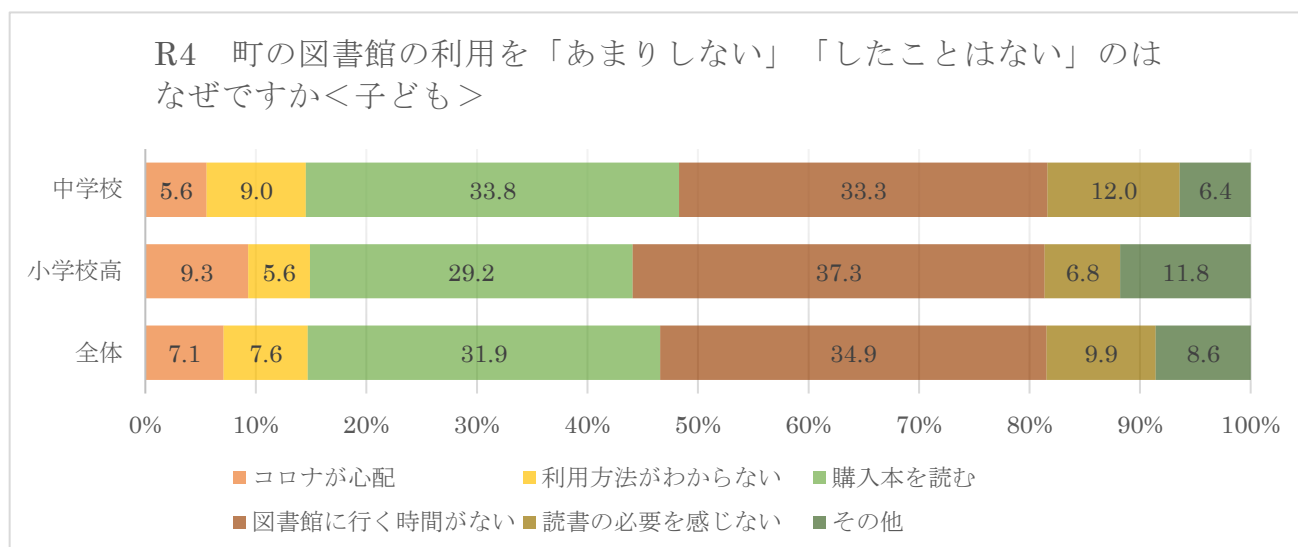


- ・中学生は、令和元年度に比べ令和4年度は、利用が大きく減少している。
- ・小学校低学年で、図書館を「利用したことがない」児童が3割以上いる。
- ・いずれもコロナによる公共施設の敬遠があると考えられる。
- ・小学校低学年での図書館の利用を進めることが、今後の図書館利用に直結すると考える。保護者へのアプローチとともに、学校にも協力を仰いでいく必要がある。
- ・コロナの影響も含め、今の図書館には次のような課題が考えられる。
 - ・勉強スペースがない。
 - ・図書館に長時間いることができない。
 - ・学習室がない。
 - ・5時閉館のため、平日、中・高生や社会人が利用する時間がない。

Q 9 <保護者>

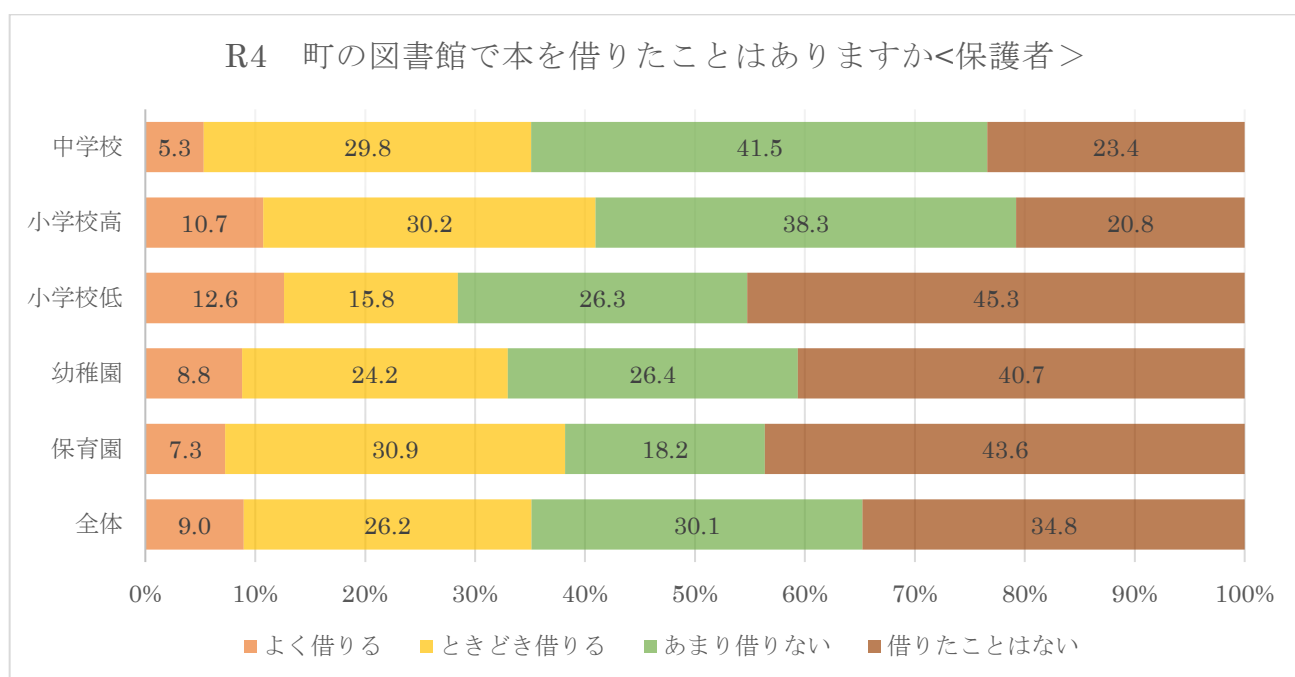
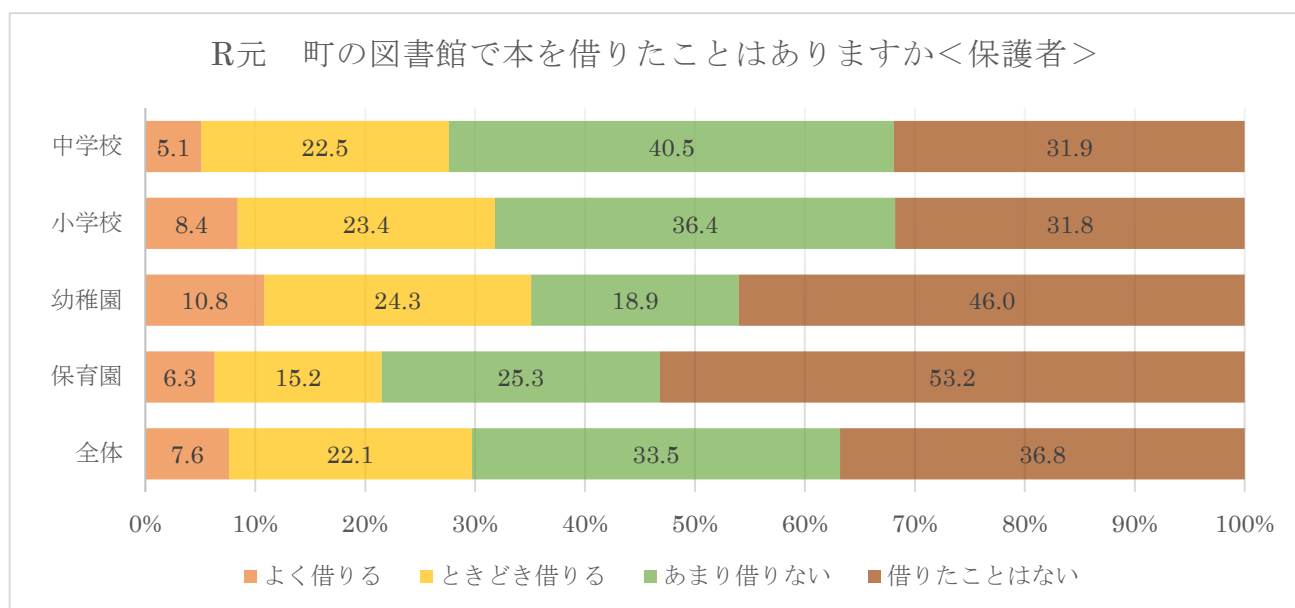


Q 9 <子ども>



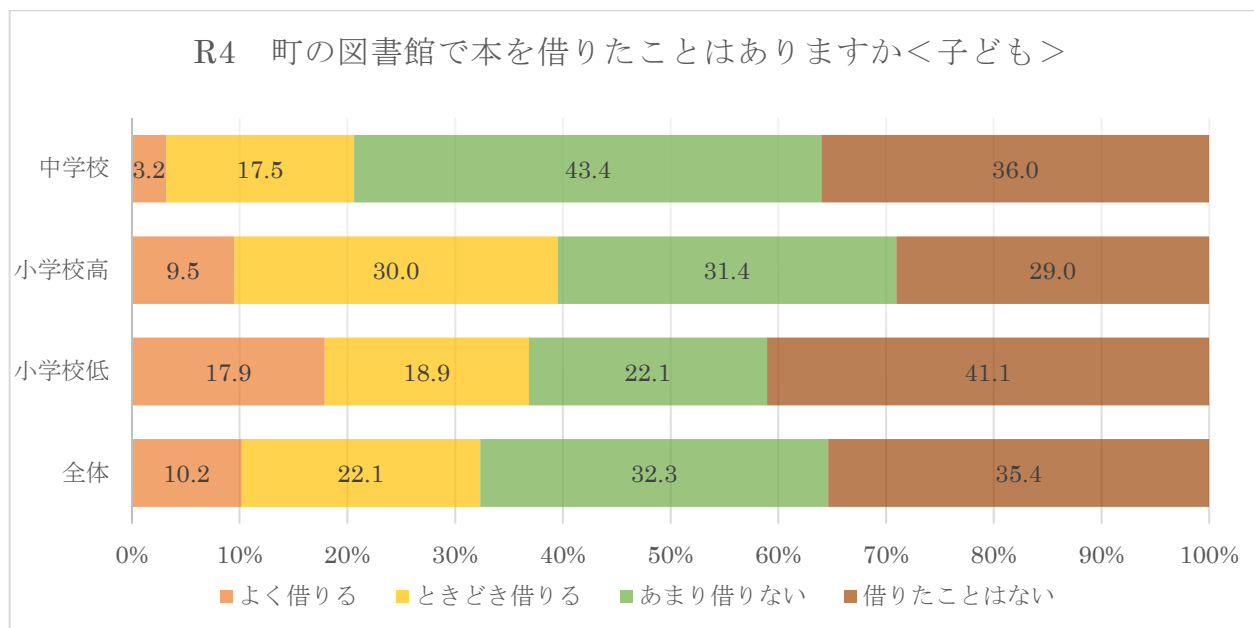
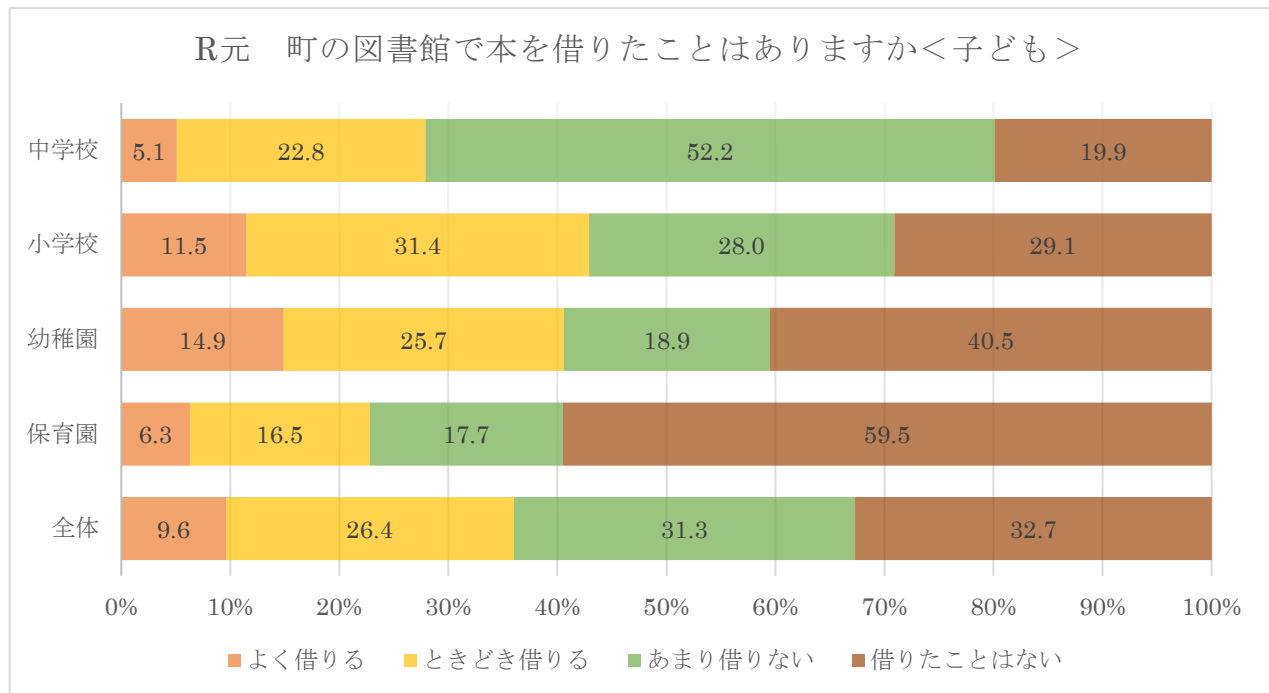
- ・保護者も子どもも「図書館に行く時間がない」が、一番多く、3～4割を占めている。
- ・コロナが心配で利用を控えている人も少なからずいる。「購入本を読む」のもコロナの影響があると考えられる。
- ・利用法がわからない人が少数だがいる。周知を図っていく必要がある。

Q10 ＜保護者＞



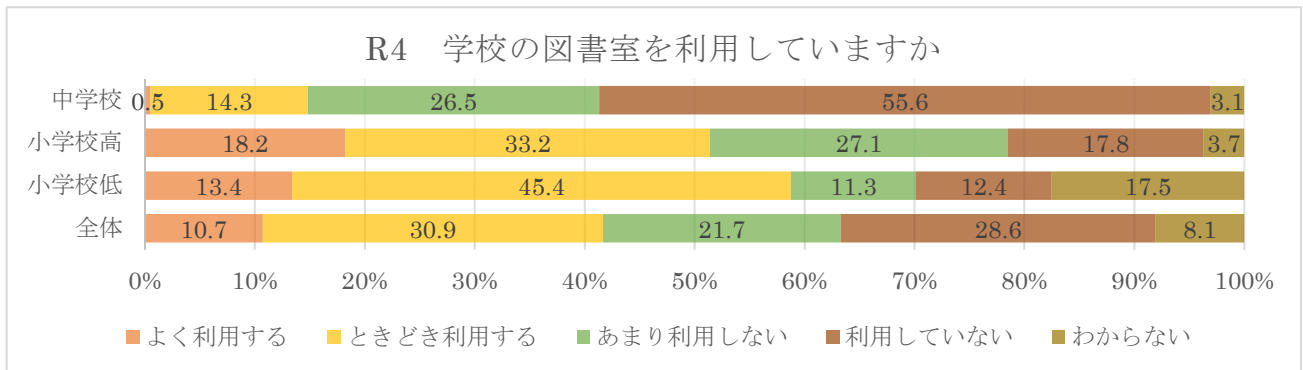
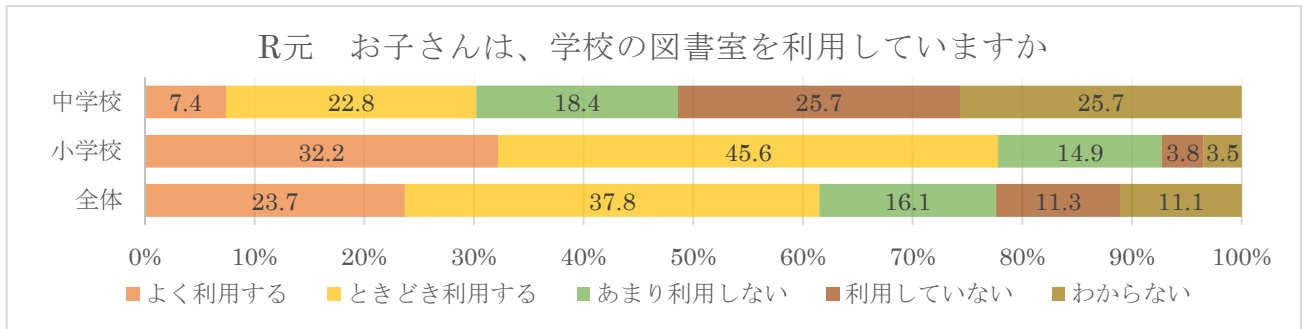
- ・ 保育園の保護者の利用が増えている。特に「ときどき借りる」が、2倍に増加した。
- ・ コロナ禍で、在宅時間が増加し、家庭での読書も増えたのではないかと考える。

Q10 <子ども>

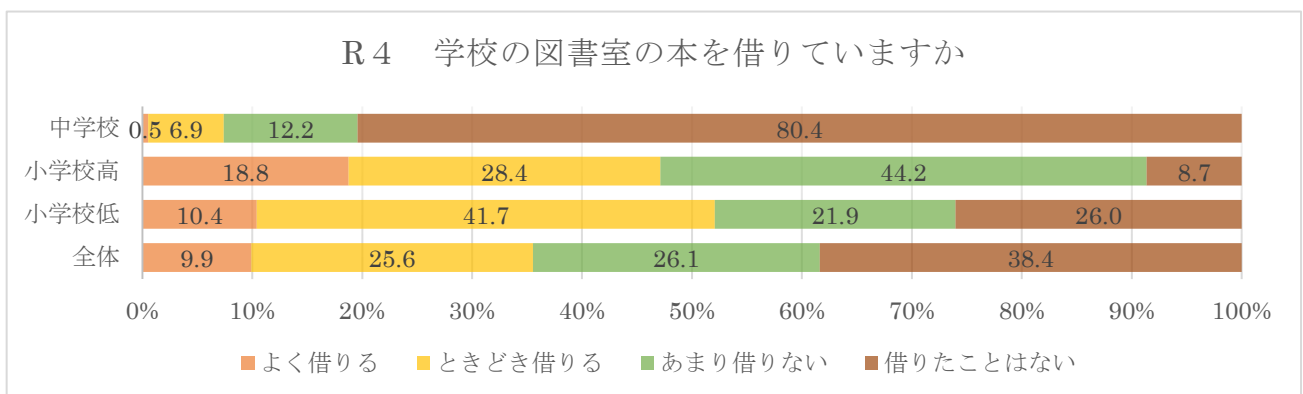
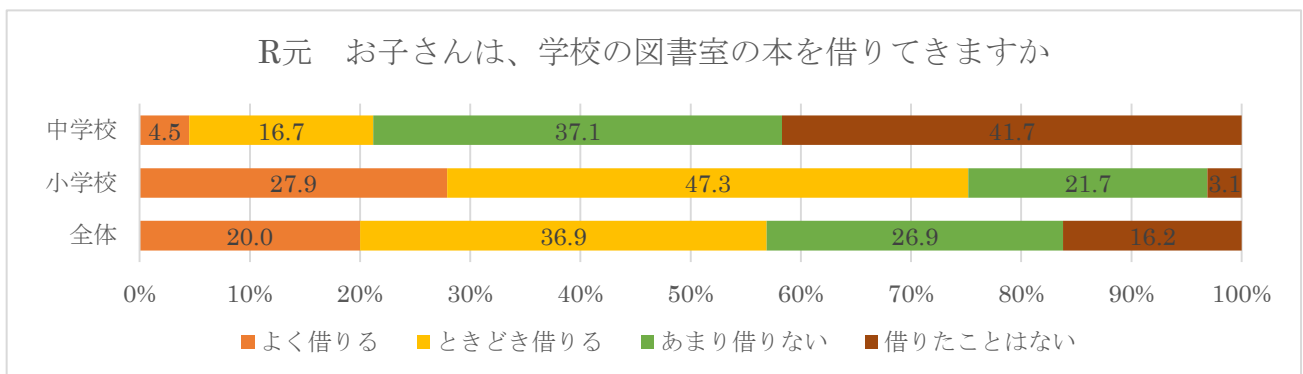


- ・中学生の「図書館の本を借りる」割合が、大きく減っている。借りているのは2割である。コロナ禍で、自粛を迫られ、外出することが少なかったためと考える。
- ・小学生の図書館利用が増えているが、本を借りる人は増えていない。寺子屋まつだ等の際の待ち時間に立ち寄るのみの利用が多いと考える。

Q11

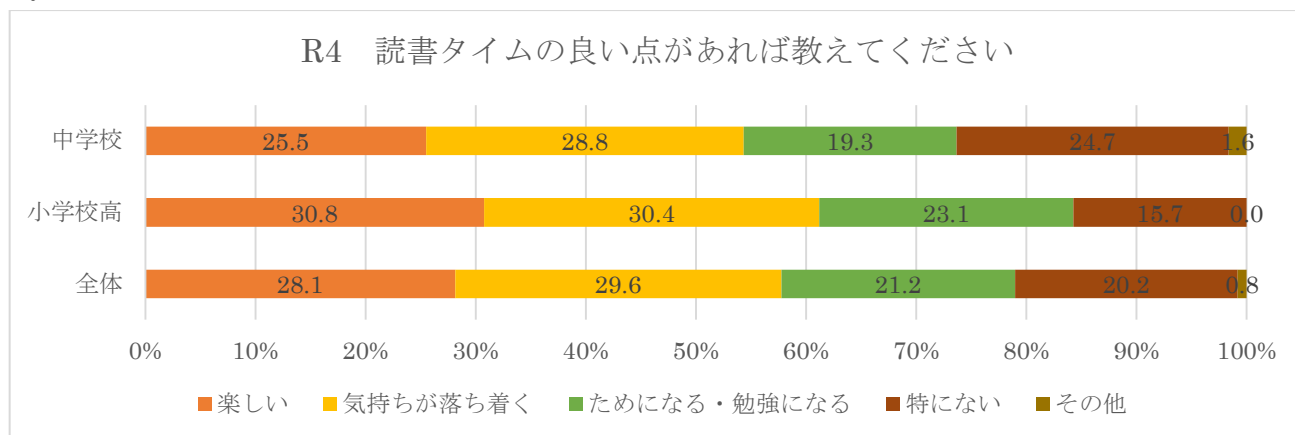


Q12



- ・コロナ禍で、図書室を利用できる日がかかなり制限されているため、小学校、中学校ともに「利用していない」が増加し、「よく利用する」は減っている。小学校は、本を家に持ち帰れないことも原因ではないかと考える。
- ・中学生の「全く利用していない」「全く借りたことがない」が大きく増えている。
- ・図書館の利用の仕方がわからないという意見があったので、小学校入学時等に図書館の案内を配付できるとよいと考える。

Q13



- ・中学生にとって、読書タイムは読書の機会を得る貴重な場となっている。
- ・子どもにとって、有意義な時間となっていると考えられる。
- ・読書タイムから読書の習慣をつけるきっかけになってもらえるとよいと考える。
- ・発表や紹介など読書活動を発展させるきっかけとなるとよいと考える。

(4)自由記述

(⇒太字の箇所:考察)

【保護者】家庭での読書について、工夫や配慮していることがありましたらご記入ください。

【子ども】家庭での読書について、工夫していることなどがあつたら書いてください。

保育園・幼稚園【保護者】から (抜粋)

- ・毎日子供が寝る前、1～3冊子供が読んで欲しい本を自分で選ばせることを習慣にしています。新しい本を選び購入するときは、その時、子供が興味あるものが登場するような絵本を選ぶようにしています。
- ・同じ本でも子どもが読みたがれば何度でも読み聞かせをするようにしています。
- ・まだ1歳で好きなものや興味も定まってないので親の好み等の偏りがないよう色々な種類の本を読ませています。
- ・様々なジャンルの本にふれさせる。

⇒子どもの状況に応じて読書を行っていることがうかがえる。

- ・上の子・下の子に合った本を読むようにしている。また、上の子が下の子に読んであげてゐる事があるのでたくさんほめるようにしている。

⇒上の兄弟が下の兄弟に本を読んであげているのは良いことである。

- ・ねる前に本を読む習慣をつくり、子供が選んできた本をねっころがったり、ひざの上にのせたりしてよんでいます。じっくり絵をみたりお話を聞いて楽しそうにしてくれたりします。好きな本は作者を調べて他の本も読むようにしています。
- ・じっと座って読んでくれないことがあるが、その場合はひざの上に乗せて密着した状態で読むと静かに聞いてくれることがある。
- ・読める日は寝る前に読み聞かせをしたり、絵本を読む前に手遊びをしたりしている。主人が休みの日は、パパの読み聞かせの日を作っている。
- ・絵本の絵をよくみて、親子で会話が広がります。

⇒本を読むことで親子のコミュニケーションがとれることは、よいことである。

- ・子どもが寝る前に好きな本を読むことにしている。
- ・就寝前に必ず読み聞かせで1、2冊本を読みます。

⇒読み聞かせの習慣化は大切なことである。

- ・本人が興味をもったり、読みたいと言った本を購入したりするようにしている。
- ・本人に読んで欲しい本を選ばせる。
- ・親が選ぶのではなく本人に選ばせ、選んだ本の系統で新しく本を購入したりしています。
- ・なるべく年齢にあわせたテーマのもの、本人が読みたいと思われるものなどを選んでいきます。

⇒子どもの意思を尊重して本を選ぶことは、読書活動をする上で大切である。

- ・時々図書館に本を借りに行くことが楽しみのなっています。
- ・みんなで楽しく読む。興味なさそうな本を夫婦で楽しそうに読んでゐると読むのでその作戦で色々読ませています。

⇒みんなで楽しく読むという気持ちを持つことは、読書を継続する上で大切である。

・子どもが気づいた事があつたら、「そうだね。よく気づいたねえ。」とほめたり、認めてあげたりする。

⇒本を読んで気づいたことをほめたり認めたりすることはモチベーションが上がり、継続につながると思われる。

・子どもも読みきかせている自分も、ゆったりとおだやかな気持ちになれる時間なので今後も続けていきたいと考えています。

⇒子どもだけでなく保護者にとっても、おだやかで有意義な時間であることがうかがえる。

小学校1～3学年【保護者】から(抜粋)

・土曜日は行ける限り、図書館へ行き、親子で好きな本を借りて読んでいる。なるべく文章があるものやその時興味があることを中心に選んでいます。

⇒このような家庭が多いと思われる。

・本が読みたくなるような環境づくりをしている。

⇒このような環境づくりは、読書活動をする上で基本と言える。

・推薦図書をまとめたポスターを参考にしている。

⇒本を選ぶ上で、一つの目安、手立てとなる。

・読書を習慣化したいとは常々思っているが、図書館や本屋へ行っても子どもが選ぶ本が「仮面ライダー」や「ポケモン」の図鑑になってしまい、4歳くらいからの読書の習慣がなくなりました。

・マンガが好きでたくさん読んでいたら、活字病くらい、読む癖(習慣)がついたように思う。

・子どもが興味を持ったこと(動物・星・花など)を広げるような本を探す。

⇒ある程度、親がよい本を選び、心を豊かにする読書の良さを身につけていくことも必要である。

⇒子どもの意思・興味を尊重していくことは今後、子どもを読書好きにしていけるきっかけをつくる上で大切である。

⇒マンガ本も本を読むようになるきっかけを作る。マンガ本から活字の本へどうつなげていくかが今後の課題となる。

・子どもが選ぶ際には、本人の興味のある分野の本を自分で決めさせている。(1)

・本人が「読みたい」といった本を選ぶようにしている。(3)

⇒読み聞かせをする際、年齢に応じた内容を選んでいくことは必要なことと言える。

・近隣の市町村の図書館も利用しているヘビーユーザーです。TV やゲームだけにならないよう、読書の時間をつくるようにしている。

⇒このように熱心な家族の状況を他の家庭に広め、参考にしていけることが大切である。

・私がよく読んでいる姿を見て、子どもも最近絵本ではなく、小説を読むようになってきた。

⇒保護者の後ろ姿から、学ぶことがたくさんあると思われる。

小学校4～6学年【保護者】から(抜粋)

・読ませたい本、欲しいと言われた本は基本的に与えている。ゲームの攻略本は自分のお小

遣いで買わせている。小説、図鑑、うんちく、漫画等、何でも読ませている。親も良く本を読む。

⇒子どもに親が読書する姿を見せていくことは、子どもが読書習慣を身につけていく第一歩となる。

- ・読んだら褒めるようにしている。漫画でも OK。
- ・気づいたことがあったら、「そうだよねえ。よく気が付いたねえ。」などとほめたり、認めたりしている。

⇒認め、ほめることは、子どもが読書をするきっかけとなる。

- ・子どもが興味を持てそうなテーマを扱った本を選んでいる。
- ・子どもが興味を持った本をシリーズで読めるようにする。
- ・まず読む習慣をつけるため、子どもが好きな内容のものを選びます。

⇒子どもの興味にあった本を読ませるのが読書のきっかけにつながる。

- ・家族で今、人気がある本や小説など、情報を共有しています。

⇒親子のコミュニケーションをとることは、親子の絆をつくる上でも、また、子どもを本好きにする上でも大切なことである。

- ・就寝前の 30 分前から、みなで本を読む時間にして、テレビも消して、静かな中で過ごします。(母親の帰宅が遅いと声をかける人がいないので、そこは課題です)
- ・子どもが小さい頃から、図書館を良く利用していました。家族それぞれカードを作って、自分で選んだものを借りて、また返却するときに、また借りて。そのためか、10 分でも毎日、好きな時間で読んでいる姿を見ます。常に手に取って読めるように、リビングのソファの横やダイニングテーブルの横、寝室ベッド横に本を置くようにしています。
- ・目に入りやすいところや、取りやすいところに、子どもの好きな本を置いている。

⇒読書をする上で環境づくりは大切なことである。他の家庭にも広めていく必要がある。

- ・やはり、図書館利用は読書につながっているので、行くようにしたい。

⇒大切なことなので、他の家庭にも伝えていきたい。

- ・1 歳からずっと、寝る前に読み聞かせが続いています。息子は 6 年生。子どもが読んでほしいと言う間は、続けるつもりです。今読んでいるのは、ドリトル先生シリーズ。私も楽しんでいます。習慣となれば、工夫も配慮もいりません。小さな子どものうちに、良い絵本に出会ってほしいです。

⇒読み聞かせが将来の読書活動の習慣化につながる。

小学校4～6学年【子ども】から(抜粋)

- ・自分が一番落ち着く場所で読むといい。
- ・家では、夜寝る前に読書をしている。
- ・なるべく静かに読んでいる。
- ・家でよくいる場所に置いている。

⇒環境を整えた場所や落ち着く場所で読書することは大切である。

- ・ゲームなどをしたら、あとに目を休めるためにしている。

⇒今の子どもがゲーム中心の生活をしていることがうかがえる反面、読書で休まることを感じていることもわかる。

- ・本を読む時間を決めている。

⇒習慣化につながる一つの手立てとなる。

- ・一気に読んで読む本がなくならないように、一日一冊などと決めている。
- ・少しずつ、あきないようにみる。
- ・週に1，2回は、読むようにしている。

⇒無理をしない読書は、習慣化、長期の継続につながり、大切なことである。

- ・学校で借りた本を家に持って帰って、土日に読んでいる。(4人)

⇒学校の図書室から本を借りることが習慣化されている子どももいる。休日に本とじっくり向き合う様子がうかがえる。

中学校【保護者】から(抜粋)

- ・小さい頃は読み聞かせをよくしていた。最近は興味に応じて購入している。
- ・子どもたちが小さいときは寝る前の読み聞かせを習慣にしていました。成長とともに読むことが自然と習慣になるようにしていました。リビングに私が借りてきた本を置いておく知らないうちに読んだりしているようです。

⇒小さい頃からの読み聞かせの習慣が、読書習慣に繋がっている。

- ・以前に子どもたちと一緒に2週に一度図書館へ通っていて松田だけでは物足らず、大井町と南足柄のカードも作ってはしごする程へビーユーザーでした。娘が中学生となり、読書は好きだけど忙しくて時間が取れませんが、学校で読書の時間があると聞いてうれしかったです。今は、私が時々行って、子どもの興味ありそうな本を借りて目に付くところに置いています。

⇒環境づくりをしていくことは、大切である。

⇒他市町の図書館を利用している家庭も少なからずある。

- ・子どもが小さい頃は、毎月本が送られてくる定期配本を利用して偏りなく絵本を読むようにしていた。親が読んでいると子どもも何となく読書は身近なようで何かしら空き時間に読んでいるし、本に関する会話の機会があり、コミュニケーションにもなるのでよいと思う。

⇒親の読書する姿が子どもに自然に伝わる。

中学校【子ども】から(抜粋)

- ・読んでいるときしっかり場所で想像している。想像して読む。

⇒物語の場面を想像しながら読むといった楽しみ方のできる人もいる。

- ・寝る前に読む。

⇒寝る前に読むという習慣が出来上がっている人もいる。

6 まとめ

- ・「家読（うちどく）の日」の周知については、令和元年度以降、園や学校の協力もあり、ずいぶんと進めることができた。しかしながら、依然3割以上の方が「知らない」としているので、これからも、手立てを工夫して周知を図っていく必要がある。
- ・家庭での読書については、保護者も子どもも、わずかではあるが増えている。「読書をする」理由として、子どもは年齢が上がるにつれて、「好き・楽しいから」行う読書から、「気分転換・落ち着くから」行う読書が増えている。読書の持つ情緒面への働きも重視していく必要がある。記述欄からは、読書が習慣化し、本の世界を楽しむことができる子どもの様子もうかがえる。読書活動の推進を今後も続けていきたい。
- ・保護者は、子どもが小さいほど「時間がない」ため、「読書できない」「読み聞かせができない」としている。就寝前の時間をうまく活用している事例も多く記述されているので、こうした事例をいろいろな手立てで紹介することにより、読書や読み聞かせの大切さを知らせていく必要がある。
- ・タブレットやスマートフォンなどの電子機器による読書も今後進んでいくと考えられるため、本（紙）による読書と併せて、社会の状況を見ながら進めていく必要がある。
- ・町の図書館の利用については、保育園の保護者の活用が大きく増えた。コロナによる影響で、図書館の本を活用したのではないかと考える。反対に、中学生の図書館や図書室の利用が大きく減っている。こちらは、コロナによる公共施設の敬遠が影響していると考ええる。購入した本を利用している様子もうかがえる。コロナの終息後に、再び利用してもらえるような工夫が必要と考える。
- ・幼稚園・保育園における「読み聞かせ」と、学校における「読書タイム」は、子どもたちにとって貴重な読書体験の場である。「楽しい」「気持ちが落ち着く」「ためになる・勉強になる」を合わせて80%になる。子どもにとって大切な時間であると考ええる。
- ・町のブックスタート事業の活用、週の読み聞かせの回数、図書館の利用などで、読書活動を進めている人が増える一方、読書活動に関心の薄い人も増えているといった「二極化」の傾向が表れている。読書の意義を伝え、喜びを体験できる機会の提供を考えていく必要がある。
- ・幼少期の保護者による「読み聞かせ」や保護者とともに図書館へ出かけ、本を選ぶ経験は、ひとりで図書館や図書室に出かけ、本を借り、読むことに大きく繋がっていると考ええる。今後も、家庭における読書活動を推進するために、園や学校、図書館の力を大いに活用し、共に協力しながら様々な工夫をしていく必要がある。

令和4年10月
松田町社会教育委員会議